

## VI 学 生 支 援

### 1 学習支援におけるガイダンス、相談、助言

#### 1.1 導入教育

中学生に対する説明会等の機会を活用し、入学前から教育内容の周知に努めている。入学後も5年間一貫教育のカリキュラムを学生が意識し、現在の勉学をそのカリキュラムの中で位置づける事は重要なことである。新入生に対してはこれからの勉学の見通しをよくし、学習の目的を明確に意識できるように導入教育の充実を図ってきた。1年生には情報関係の授業を前期科目に設けるようにし、情報リテラシーを各学科とも共通して教授している。このことによりLANを利用したシラバス等の学習関係の情報の取得やTOEICの自習教材の利用を可能にしている。また、くさび形教育の特色を活かして機械工学科に「プログラミング基礎」、電気情報工学科に「電気情報工学実験基礎」、都市システム工学科に「工学基礎Ⅰ」、建築学科に「建築一般構造」を配置するなど、専門科目と一般科目との関連をわかりやすく理解できる教科を配置し、有機的に勉学を進めることができるようにしている。

#### 1.2 ガイダンス

新入生が本校の教育全般に関して理解を深めるためのもの、本校のカリキュラムの構成や教科内容に関するもの、成績評価や単位取得・修了・進級に関するもの等、ガイダンスを目的に応じて行っている。これら各種のガイダンスを教務日程として年間行事予定の中に設定し、着実に実施している。

- (1) 入学オリエンテーション：準学士課程の入学検査合格者に対して3月中旬に実施し、教育方針・教育目的・学習教育目標に関して説明を行っている。入学生に4月入学当初に配付している「学生生活のてびき」には、学習を進める上でのガイダンスをほぼ網羅している。
- (2) 新入生合宿研修：1年生を対象に4月下旬に一泊二日で実施し、研修プログラムにカリキュラムの構成等を説明する時間を盛り込み、担任・専門学科教員が教科内容の説明に当たっている。
- (3) 新入生への成績評価ガイダンス：5月下旬、定期試験（前期中間試験）の前に新入生全員の合同ホームルームを開催し、成績評価に関するガイダンスを実施している。定期試験の説明、受験上の諸注意、成績評価と関係する補充指導や単位認定・学年修了条件の説明をしている。
- (4) 選択科目ガイダンス：準学士課程3・4年生に対して1月～2月初旬に実施し、本校の教育目標及びJABEE基準に対応した科目履修が行えるようにしている。一般科目教務委員と各専門学科の教務委員が、ホームルームや放課後を利用して、「選択科目履修のてびき」を配付し、説明にあたっている。
- (5) JABEEオリエンテーション：準学士課程4・5年生に対して4月中旬に実施している。
- (6) 卒業オリエンテーション：準学士課程5年生に対して1月中旬頃に実施し、卒業生を招いて社会に出る際の心構えや体験談を聞くなど卒業に備えさせている。
- (7) 専攻科オリエンテーション：「専攻科・『共生システム工学』教育プログラム履修の手引き」を、入学前の2月及び3月のオリエンテーションで配付・説明している。
- (8) 学位申請説明会：専攻科2年生を対象に6月中旬に開催し、学士（工学）の学位を大学評価・学位授与機構に申請する際の、申請方法・学修成果提出物・受験等の説明と、提出書類の校内締切・点検等の確認を行っている。

### 1.3 担任とロングホームルーム

担任は学生にとって最も身近に接することのできる教員であり、学業及び日常生活に関する相談・助言・連絡・指導を行っている。「担任マニュアル」に指針が示されており、このマニュアルは年度毎に適宜改訂している。日常の支援に関しては、メール等による教科担当からの連絡、LAN上の成績一覧や出欠一覧等、担任は以前よりも豊富な情報を得ながら、受講状況や勉学姿勢・成績に関して、学生に相談・助言を行っている。3年生以下では、担任が毎週水曜日のロングホームルームに相談・助言等を実施している。特に、1・2年生では専門学科の副担任の協力も得ながら、専門分野や進路についての紹介も多く実施するようになった。卒業生や外部講師を招聘して講演を依頼することも実施している。

### 1.4 オフィスアワー

全教員に週2日以上のおフィスアワー設定が義務付けられており、学生玄関、教室に一覧表として各教員のオフィスアワーの時間帯・特技・興味等を掲示するとともに、各教員室の前にも明示している。学生にとっては教員に接するチャンスが増え、教科内容の質問等、相談をうけやすくなった。

### 1.5 学生相談室

学生相談室は図書館1階に設置され、空間も比較的ゆったりしており、明るい木目調の家具も備えられて和やかな雰囲気のものとなっている。入口の掲示板も親しみやすく、学生が相談しやすい雰囲気を作り出している。

相談員の充実も図られ、平成22年度では、教員5名・看護師1名に加え、週1回は専門のスクールカウンセラーも来校している。

相談内容は様々であるが勉学意欲に関する相談が比較的多く、広い意味での学習の支援となっている。また、1・2年生に対してはYG性格検査、3年生以上に対してはVPI職業興味検査を希望者に対して実施している。受検者は各自の検査結果をカウンセラーの解説にもとづいて理解しており、将来の自分の仕事を検討しながら勉学を進めることができる。

教員全員を対象に年1～2回程度、カウンセラーによる講演・講習をFD講演会として実施しており、教員が学生の内面的な課題に配慮しながら学習支援を進められるよう、啓発を図っている。

## 2 自主的学習環境及び福利厚生施設の状況

### 2.1 自主的学習環境

本校においては、以下のように自主的学習環境を整備している。

#### (1) 図書館

図書館の利用については、「学生生活のてびき」及び本校HPで案内している。約100席の閲覧スペースと48席のAV室を有し、主要な自習スペースとなっている。また、パソコンを10台備えて図書検索を容易にするとともに、TOEIC学習端末も8台設置しており、利用のしやすさ・利用形態の拡大を図っている。AVルームも機種を更新を少しずつ進めており、各種のマルチメディアの利用を可能にしている。

情報機器による管理が進み、効率的な運営が可能となった。積層書架への入室も可能であり、文献資料収集の便を図っている。図書購入に際して学生の希望も受付けている。平日夜間20時まで及び土曜日16時半まで開館しており、多くの学生が積極的に利用している（資料8-1-22 参照）。

## (2) 情報センター

情報センター（以下センター）については、「学生生活のてびき」及び本校ホームページで案内している（資料6-2-1）。1クラス収容の演習室2室及び自習室（パソコン9台）、準備室（同6台）があり、学生が自由に利用できる。機種が更新が着実に進められており、最新の機器とソフトウェアの利用が可能になっている。LinuxとWindowsが同一のホームディレクトリで利用できるようになったことで利便性も格段によくなった。センターのサーバは校内の研究LANに接続しており、サーバのコンテンツを教室、実験室、卒研室、研究室等から利用することが可能である。出入り口の段差が解消され、プロジェクターやスクリーンが整っており、演習室は利用しやすい環境条件が維持されている。開館時間に関しては、夜間及び休日にも開館しており、延長時間帯における利用者数も多い（資料8-1-19 参照）。

## 資料6-2-1 情報センターの利用

平成22年度 「学生生活のてびき」目次及び該当ページより抜粋

7. 情報処理教育センター	31
(1) 利用時間等	31
開館時間中は、授業に使用している場合を除いて自由に利用できます。	
■授業期間中	
演習室1, 演習室2及び自習室	
月曜日～金曜日	9:00～19:45
土曜日	10:00～16:15
準備室	
どの曜日も	7:00～20:00
■休業期間中	
演習室1, 演習室2及び自習室	
月曜日～金曜日	9:00～17:00
準備室	
どの曜日も	7:00～20:00
(2) 休館日	31
(3) ネットワーク利用	31
(4) マナー	31
(5) センターの設備	32

本校ホームページより抜粋：自習に使用できるソフト

WindowsはWindows Vista Business Editionをベースとしたシステムで、さらに以下のようなソフトを追加しています。（\*は演習室2と異なるもの）

★ 名称 ★	★ 説明 ★	★ 名称 ★	★ 説明 ★
rkTTT	タイピングソフト	POV-Ray	レイ・トレーシングソフト
Firefox	ブラウザ	Gimp	ビットマップ画像編集ソフト
Sylpheed	メールソフト	Inkscape	ベクトル画像編集ソフト
Microsoft Office 2007	ワープロ,表計算,プレゼン,メール	OpenOffice.org	オフィススイート
Symantec AntiVirus	コンピュータウイルス防御ソフト	Graph-R	等高線などを作成するソフト
Adobe Acrobat *	PDF文書作成ソフト	Google SketchUP 6	3Dモデル作成ソフト
Adobe Reader	PDF文書閲覧ソフト	GRAPES 6.71	関数グラフ描画ソフト
VMware Player	仮想マシン構築ソフト	3D-GRAPES 1.41B	3次元関数グラフ描画ソフト
QuickTime	マルチメディアプレーヤ	PuTTYjp 0.60	SSH, telnet用ソフト
JW-CAD	CADソフト		

## 資料6-2-1 情報センターの利用(続き)

## Linux 上のアプリケーション

Linux はUbuntu 8.10 をベースとしたシステムで、さらに以下のようなソフトを追加しています。

★ 名称 ★	★ 説明 ★	★ 名称 ★	★ 説明 ★
<b>C言語, FORTRANコンパイラ</b>	コンパイラ	<b>Thunderbird, Sylpheed</b>	メールソフト
<b>POV-Ray</b>	レイトレーシングソフト	<b>Typist, trr</b>	タイピング練習ソフト
<b>fepov</b>	POV-Rayのフロントエンド	<b>Firefox</b>	ブラウザ
<b>emacs</b>	テキストエディタ	<b>VMware Player</b>	仮想マシン構築ソフト
<b>Bluefish</b>	HTMLエディタ	<b>Eclipse</b>	統合開発環境
<b>u2ps</b>	テキストファイル印刷ソフト	<b>Java 2 SDK</b>	Javaコンパイラ・Java仮想マシン
<b>LaTeX</b>	組版システム	<b>Network Simulator 2</b>	ネットワークシミュレータ
<b>OpenOffice.org</b>	オフィススイート	<b>MPI-2</b>	メッセージパッシングインターフェース
<b>Tgif</b>	図形描画ソフト	<b>R</b>	統計解析ソフト
<b>Gnuplot</b>	グラフ描画ソフト	<b>Weka</b>	データマイニングソフト
<b>Gimp</b>	ビットマップ画像編集ソフト	<b>Scilab 4.1.2</b>	数値計算ソフト
<b>MagicPoint</b>	プレゼンテーションソフト	<b>Jamox normal 0.9.5</b>	制御系モデリングツール
<b>Adobe Reader</b>	PDF文書閲覧ソフト		

## (3) 実習工場

実習工場では、毎年6月上旬に機械工学科以外の学生を対象とした「実習工場利用ガイダンス」を実施している(資料8-1-4, 資料8-1-5参照)。卒業研究やロボコン参加チーム等に利用されており(表6-2-1)各種の設備(表6-2-2)を備えている。

また、情報センターや実習工場での技術職員による支援は、技術教育支援センターができたことで柔軟な体制を組むことが可能になりつつある。

表6-2-1 実習工場利用状況(平成18~21年度)

年度	実習・実験	ロボコン	高専祭	卒業研究	その他	Total
H18	303	320	50	100	200	973
H19	303	395	50	250	200	1,198
H20	375	363	72	250	230	1,290
H21	345	355	30	250	200	1,180
H22	345	339	200	200	400	1,484

(単位は時間数)

## (4) 実験室等

各学科には実験室を整備しており、高学年の学生は自由に卒業研究などに使用できる。また、共通ゼミ室や卒研室等は自由に利用できる空間となっている(資料6-2-2)。

## (5) 業務時間外利用と指紋認証システム

校舎、情報センター、一部の実験室等は指紋認証システムにより、時間外及び休日の出入りが可能となっている。この入退室管理システムは出入り口ごとに時間設定が可能であり、演習室・卒研室・実験室等も含めた自主的学習環境の幅広い時間帯での利用を可能にしている。また、防犯上もより安全な施設を実現している。平成14年に導入したこのシステムの効果は非常に大きく、長時間の作業を要する卒業研究・課題研究や各種課題制作が格段にやりやすくなった。(校舎改修以前の出入り口はすべてリモートコントロール式の電気錠であり、業務時間外に施設を利用する際にはその都度警備員に依頼して開錠してもらわねばならなかった。)

また、入力した暗証番号を元に入退室者とその時刻も記録されており、利用頻度を知る事や防犯上の安全面にも役立っている。

表 6-2-2 実習工場の設備状況

NO	機械名	形式	導入年月日
1	CNC旋盤	日立精機NR-18	1992.03.25
2	汎用旋盤 (8台)	ワシノLR-55A	2009.03.30
3	汎用旋盤	タキサワTAL510	2010.3.30
4	汎用旋盤	大隈鉄工LS	1988.03.29
5	溶接ロボット	DAIDEN-FANUC, ARCMATE	1990.03.31
6	プラズマ切断機	大阪電気AR-SC61P	1990.03.31
7	CO2ガス溶接機	大阪電気AUTOTAC350U	1990.03.31
8	アーク溶接機 (7台)	大阪変圧器KR-300	1988.10.
9	TIG溶接機	日立製作所ARC-PAIR300ST	1979.01.09
10	自動ガス切断機	小池酸素IKWEASEL	1989.9.
11	CO2ガス溶接機	大阪変圧器300S	1971.06.16
12	ワイヤ放電加工機	ブラザー工業HS-300ファナックROBOCUT α 1iD,	1991.03.26 2008.3.28
13	平面研削盤	岡本PSG63DX	2010.3.30
14	マシニングセンタ (2台)	日立精機VM-40森精機DuraVertical5060	1987.09.30 2009.3.3
15	NCフライス盤 (2台)	静岡鉄工VHR-ANイワシタNV2	2006.03.20 2009.3.6
16	直立ボール盤 (2台)	吉田鉄工YUD-540	1988.03.16
17	卓上ボール盤 (2台)	日立製作所B330-2	1988.06.07
18	立フライス盤	静岡鉄工	2006.03.20
19	油圧帯鋸盤	KOIDE NT200	2009.3.30
20	高速砥石切断機	昭和機械 SK-3S	2009.3.30
21	コンターマシン(2台)	日本工機ラクソー300ワイエス工機Cz-600 II	1968.11.20 2009.3.30
22	円筒研削盤	TOYODA G32	2010.3.30

## 資料 6-2-2 施設・設備の利用

## 10. 施設・設備の利用 ※「平成22年度 学生生活のてびき」より抜粋

施設・設備の利用については、その利用目的を考慮した上で適当と判断されれば認められます。したがって、事前に所定の「施設・設備使用許可願」を学生課に提出してください。

## (1) 教室・実習室等施設

P. 41

使用時間は20時までを原則とします。ただし、施設設備の使用規程、使用心得が定まっている施設については、各使用規程、使用心得によります。

## 資料6-2-2 施設・設備の利用（続き）

## 1. 卒研・製図等正課で使用する場合（学科生）

（平日）

20時以降は指導教員立会い（指導下）のもと許可します。

ただし、22時～翌日7時に使用する場合は、所定の様式「時間外施設・設備使用許可願」により指導教員及び学科長の許可を得て、当日の15時までに教務係へ提出してください。

（土曜日・日曜日・休日）

20時以降は事前に指導教員の許可を受けておいてください。指導教員立会い（指導下）のもと許可します。

ただし、22時～翌日7時に使用する場合は、所定の様式「時間外施設・設備使用許可願」により指導教員及び学科長の許可を得て休みの前日の15時までに教務係へ提出してください。

（出典 学生生活のてびき）

## 2.2 福利厚生施設

厚生施設として福利施設があり、1階は学生食堂・売店・ラウンジとして利用されている（資料6-2-3）。ラウンジは自動販売機が置かれていることもあってよく利用されており、バリアフリー化の一環として渡り廊下と自動扉で直接結ばれている。なお、学生食堂の厨房機器は老朽化の進行に伴い、順次更新を実施している。平成22年8月に食堂・売店に関するアンケートを学生対象に実施して利用実態を把握し、改善を検討している。

福利施設の2階は、茶道部、棋道部、吹奏楽部、ものづくり研究会が和室・課外活動共用室等を部活動に使用している。会議室・小会議室・研修室は吹奏楽部の練習に使われることが多い。会議室は高専祭実行委員会の作業場としても使用され、7月～11月は同委員会が占有することが多い。竣工当時の室利用の計画とは大きく異なっているが、利用状況に応じて工夫して空間利用がなされている。福利施設の空調機器はすでに改修され、各室ごとに操作区分がなされた冷暖房はより使いやすいものとなっている。

福利施設の北西に文化系クラブが使用している建物がある。学生会もこの建物内で活動していたが、平成14年に屋外更衣室の西側にプレファブの建物を設置し、学生会関係の活動のために広いスペースを提供した。学生会室の移動に伴い文化系部室建物の間仕切りを一部改修し、音楽部のスペースを広げ、ロボット工学研究会の部室を設けた。またここにあった吹奏楽部の器具庫も廃止して福利施設2階の課外活動共用室に集約した。ロボット工学研究会の部室は広さが足りず、結局、校舎群の東側で毎年空きスペースを確保し、ロボットを製作している。

## 2.3 コミュニティスペース

コミュニティスペースとしては、2.2のラウンジのほか、一般管理棟の2・3階に設けたコミュニケーションスペース、階段教室の南側の東屋、パラソル・テーブル・椅子が整えられた中庭の休憩スペース、グラウンド近くパーゴラのスペース等を整備し、休憩時間には多くの学生に利用されている。

## 資料6-2-3 福利施設

## 5. 福利厚生支援 ※「平成22年度 学生生活のてびき」より

## (8) 食堂・売店

P. 28

本校学生及び教職員用に、食堂及び売店を設けています。

## 1. 学生食堂

営業時間	休業日	営業品目
平日（月～金曜日）		
11:30～13:30	土曜日（12月4日除く）、日曜日、祝祭日（振替休日を含む）及び、長期休業日：夏季（8月9日～9月30日（8月20・21日除く））・冬季（12月24日～1月5日）・春季（2月28日～4月2日）、定期試験期間、高専祭代休（11月1・2日）及び、教養行事の日（11月12日）	定食（副食2～3品）、カレーライス、うどん、そば等

## 2. 売店

営業時間	休業日	営業品目
平日（月～金曜日）		
10:00～16:00 ただし、定期試験期間中は、 10:00～13:00	上記 ただし、定期試験期間中は、 売店の営業を行う。	文房具、パン、牛乳、 コーヒー等

(注) 食堂・売店共に、学校休業日及び各種学校行事の行われる日については営業品目、営業時間を多少変動することがあります。

## 10. 施設・設備の利用

## (3) 研修室等福利施設

P. 42

1. 研修室、課外活動共用室、和室、小会議室、会議室（以下「研修室等」という。）の使用に当たっては、この心得を遵守しなければなりません。
2. 研修室等を使用できる者は、本学の学生、職員及び校長が許可した者です。
3. 研修室等の使用時間は、原則として午前9時から午後7時までです。ただし、特別の理由があると認められるときは、この限りではありません。
4. 研修室等を使用するときは、学生準則第35条に定める施設・設備使用願を事前に学生課学生係（以下「学生係」という。）に提出し、使用許可を受けてください。
5. 研修室等を使用するに当たっては、次の事項を厳守してください。
  - (1) 許可を受けた施設、目的、日時以外は使用しない。
  - (2) 施設、設備、備品は大切に取り扱い、備品等は許可なく移動させ、又は室外に持ち出さない。なお、破損した場合は、速やかに学生係へ届け出る。
  - (3) 火気の取扱いには、十分注意する。
  - (4) 使用後は、整理、整頓、清掃、戸締り、消灯等の後始末をし、必ず施錠する。
  - (5) 使用終了後は、学生係に終了の報告と鍵の返却をする。ただし、勤務時間外の場合には、警備員に終了の報告と鍵の返却をする。
6. 研修室等の使用に当たって、管理上支障があると認められるときは、使用許可を取り消すことがあります。

(出典 学生生活のてびき)

## 資料6-2-3 福利施設（続き）

## 19. 主な規則

## (21) 福利施設使用規程

P.141

趣旨)

第1条 明石工業高等専門学校福利施設（以下「福利施設」という。）の使用については、施設等管理規程に定めるもののほか、この規程の定めるところによる。

(目的)

第2条 福利施設は、学生及び職員の福利厚生、研修、集会等のために使用することを目的とする。

(事務担当)

第3条 福利施設に関する事務は、学生課において担当する。

(損害賠償)

第4条 福利施設を使用する者が、その責任に帰する理由により、施設設備及び備品を破損若しくは滅失した場合は、その損害を賠償しなければならない。

(補則)

第5条 福利施設の各室の使用については、前各条によるほか別に定めることができる。

附 則

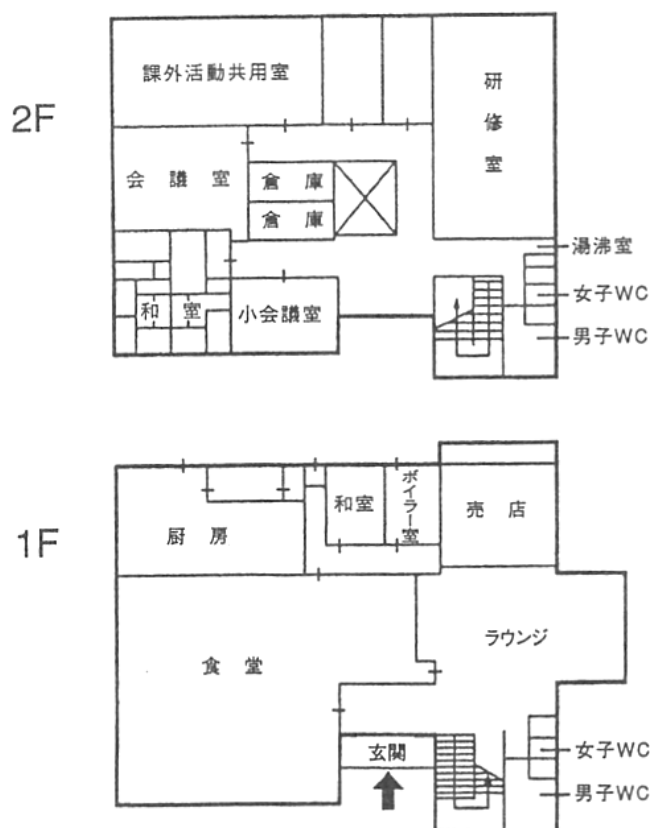
この規程は、昭和57年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、昭和61年6月7日から施行する。

## 20. 校内配置図

P. 168



(出典 学生生活のてびき)



### 3 学習支援に関する学生のニーズの状況

本校では、意見箱、授業アンケート、オフィスアワー、担任の指導、後援会との会合等の多様な手段により、学習支援に関する学生のニーズの把握に努めている。

#### (1) 意見箱

意見箱は、隔月の月上旬に学生玄関に設置し、校長・副校長が中心となって内容を検討したのち、回答を掲示している。自由な意見を投書することが可能で学習支援に関する学生のニーズを直接把握することができる。

表6-3-1 意見の内容区分毎の件数

区分	月	平成18年度						小計	区分	月	平成19年度					小計
		5月	7月	9月	11月	1月	3月				5月	7月	10月	12月	2月	
授業関係		0	1	2	0	1	0	4	授業関係		1	4	4	2	3	14
施設・設備関係		6	7	2	2	4	7	28	施設・設備関係		5	10	3	0	0	18
課外活動関係		0	0	1	0	1	0	2	課外活動関係		2	1	20	2	0	25
その他		4	4	3	10	10	2	33	その他		6	6	0	0	2	14
計		10	12	8	12	16	9	67	計		14	21	27	4	5	71

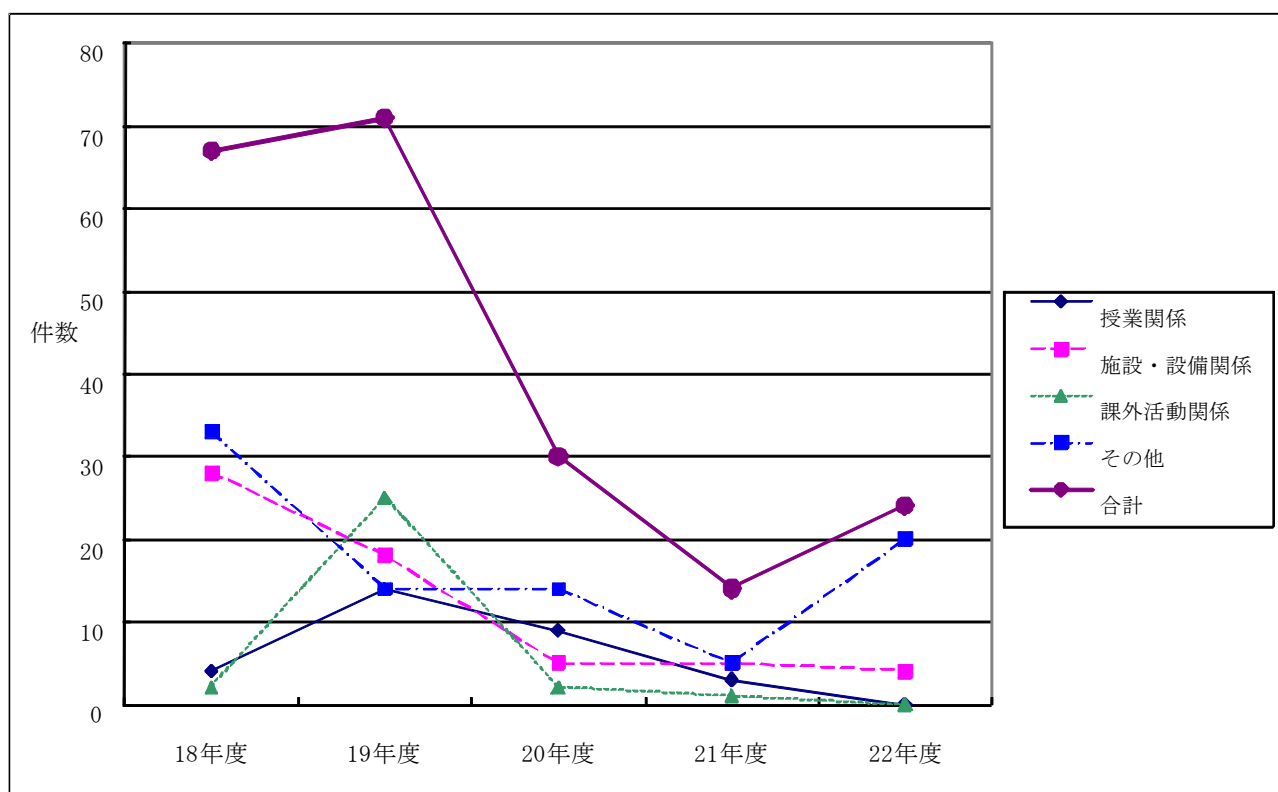
  

区分	月	平成20年度						小計	区分	月	平成21年度					小計
		5月	7月	10月	12月	2月					5月	7月	10	12月	2月	
授業関係		5	1	1	2	0		9	授業関係		0	1	0	1	1	3
施設・設備関係		2	0	0	0	3		5	施設・設備関係		1	0	1	1	2	5
課外活動関係		0	0	0	0	2		2	課外活動関係		0	0	1	0	0	1
その他		5	0	3	2	4		14	その他		1	1	1	1	1	5
計		12	1	4	4	9		30	計		2	2	3	3	4	14

区分	月	平成22年度					小計
		5月	7月	10	12月	2月	
授業関係		0	0	0	0	1	1
施設・設備関係		1	3	0	0	0	4
課外活動関係		0	0	0	0	2	2
その他		2	16	2	2	0	22
計		3	19	2	2	3	29

図6-3-1 意見箱における年度毎・事項別のグラフ



## (2) 授業アンケート

授業アンケートは、学年末（学期末）に学生が記入するもので、これも全員無記名であるため、自由記述欄には様々な意見が書き込まれる。これからも学生のニーズを把握することができる。

## (3) オフィスアワー

オフィスアワーは、どのような相談にも応ずる体制をとっており、編入学試験や資格試験に向けた受験勉強の相談等も多く、直接学生のニーズを知り得る貴重な機会となっている。

## (4) 担任及びLHR

担任は学生にとって一番身近で相談しやすい教員である。担任マニュアルに示されているとおり、ロングホームルームや個別面談を通じて、学生本人にとっての最適な学習方法をアドバイスすることが可能である。

## (5) 進路に関連したニーズ

担任あるいは学科長が担当する進路相談においては、学生の希望する進路とそれを実現するための学習に関してのニーズを直接把握し、社会や技術・研究のニーズとも関連したより具体的な学習支援を実施することができる。

## (6) 後援会における質疑

学生が家庭で話すことを、後援会の総会等の席で保護者から学校側に伝えられる。間接的ではあるが、これも学生からのニーズとして捉えられる。総会では、例年十数件の要望や質問が会員から出され、これに回答しているが、進路指導や広報関係に係る質問に対してはより適切な対応が必要である。

#### 4 各種資格試験及び外国留学の指導

検定試験・資格試験としては、TOEIC IPテスト及び危険物取扱者の資格試験に力をいれ、また、外国留学のための支援についても配慮している。

##### (1) TOEIC

TOEIC IPテストは、年2回校内で実施しており、その都度、結果を分析している。全員受験時の平均点は開始当初に比較し、100点以上上昇している。毎回、約300名が受験し、英語学習への関心が高まっている。また、その受験促進のため、受験料を4年生では全額、他の学年では約半額を援助している。なお、TOEIC自習教材として、アルクネットアカデミーを導入しており、情報センター演習室、図書館やゼミ室等から学内LANに接続し、学生が自由に利用できるよう環境を整えている。

##### (2) 危険物取扱い

危険物取扱は化学の授業内容にも関連しており、年3回の資格試験に関して、担当教員が希望者の募集・願書請求・受験料振替・願書提出等を一括して実施し、受験の便を図っている。

##### (3) その他の資格

情報処理技術者の資格等、学生の専門性とも関連していて在学中に取得できる資格がある。各学科によって資格とそれへの取組みは異なるが、受験希望を聞き纏めて願書を取り寄せるなど、積極的に支援を行っている。資格取得を単位として認める課目も設けている。

##### (4) 外国留学

外国留学のための支援体制としては、平成17年度に「派遣留学生規程」(資料6-4-1)を定め、年度途中からの留学でも帰国後履修が継続できるように配慮した。これにより、以前は留学のために2年間の休学を必要としたが、1年間の休学で留学が可能となった。また、留学先で取得した単位を認定することとした。ただ、実態として留学希望者は増加していない。

#### 資料6-4-1 派遣留学生規程

##### (趣旨)

第1条 本校の学生で、明石工業高等専門学校学則(以下学則という)第30条第4項の規定に基づき外国の高等学校または大学(以下「外国の高等学校等」という)に留学を志願するもの及び外国の高等学校に留学し履修した授業科目の単位の認定を得ようとするものの取り扱いについては、法令等及び学則に別段に定めがあるもののほか、この規定に定めるところによる。

##### (定義)

第2条 この規定において、次に各号に掲げる用語の定義は、当該各号に定めるところによる。

##### (中略)

##### (外国の高等学校等との協議)

第3条 学生の留学は、外国の高等学校等との協議に基づき行うものとする。ただし、やむを得ない事情により事前の協議を行うことが困難な場合はこの限りではない。

2 前項の協議は、次に掲げる事項について、あらかじめ学科長の発議を受け、教務委員会の議を経て、校長が行うものとする

一 履修できる授業科目の範囲 二 単位の認定方法 三 履修期間 四 授業料等の費用の取り扱い方法 五 その他

##### (留学許可申請手続き)

第4条 留学を志願する学生は、別に定める期間に所定の願書により、校長に留学の許可を申請しなければならない。

##### (留学の許可)

第5条 前条の申請があったときは、校長は、教務委員会の議を経て、外国の高等学校等に依頼し、その了解を得てこれを許可する。

##### (留学期間)

第6条 派遣留学生の留学期間は、1年以内とする。

##### (在学期間の扱い)

第7条 派遣留学生としての留学期間は、本校の在学期間を含めるものとする。

## 資料6-4-1 派遣留学生規程（続き）

（留学報告書の提出）

第8条 派遣留学生は、留学期間が満了したときは、直ちに（帰国の日から1月以内）に所定の留学生報告書及び当該外国の高等学校等の長が交付する学業成績証明書を提出しなければならない。

（単位の認定）

第9条 派遣留学生が外国の高等学校等で修得した単位は、学業成績証明書により、教務委員会の議に基づき、30単位を限度として、本校において履修したものと認定する。

（以下省略）

（出典 明石工業高等専門学校規則集）

平成16年度から2年間はヴィクトリア大学（カナダ）において、平成18年度からはオークランド大学（ニュージーランド）において3週間の語学研修を実施してきた。また、平成22年度からはカリフォルニア大学アーバイン校と協定を結び、5年及び専攻科生を対象に3週間の研修留学を実施するようになった。留学や語学研修をめざす学生に対しては事前指導や結果の報告など必要な学習支援を行うこととしている。

## 5 留学生、編入学生等に対する生活・学習支援

### 5.1 留学生に対する生活・学習支援

留学生に対しては、「留学生指導連絡会設置要項」に基き指導にあたっている。各学科の留学生指導教員とクラス担任が窓口になると共に、「チューター実施要綱」に基き、各留学生に1名のチューターを充てている。また、ホストファミリー制度も導入し、多面的な支援を行っている。

入学年度当初には「留学生オリエンテーション」を実施し、本校での学習・生活指導等について、国際交流委員会の留学生受入教育専門委員会が主に指導担当している。

カリキュラムについては、3年次に、週90分の日本語の授業を設けて継続的な日本語学習を実施し、人文系の科目を基礎専門科目分野の学習に代えて「くさび型教育」を履修させるなど「特別カリキュラム」を組んでいる。また、必要に応じて補充指導を実施している。

さらに、年1回、留学生懇談会を実施し、その中で留学生にとって有益な講演会を実施している。

留学生のほとんどは学生寮に入寮しており、宗教上の配慮から身を清めるために使用するシャワールーム（シャワー 3台）も設置している。食事に関しても自炊をする学生のために、キッチンルーム（冷蔵庫 3台、レンジ設備、空調）を整備している。また、留学生活の支援及び母国との連絡等に使用するため、パソコンルーム（パソコン 2台 プリンター 1台）も設置している。

表6-5-1 留学生・編入学生の受入れ人数

留学生受入数							編入学生受入数						
年度	M	E	C	A	ME	AC	計	年度	M	E	C	A	計
H18	1	1	1	1			4	H18		1	1	4	6
H19	1		2		1		4	H19	2			1	3
H20	1	1		1			3	H20	2	1	1	2	6
H21	1	2	1				4	H21		1	1		2
H22	1	1		1			3	H22				3	3

表 6-5-2 留学生の受入状況

編入学年度	国籍	経費負担	性別	住居	指導教員	チューター	進路
18	マレーシア	マレーシア	男	学寮	松下通紀	3 M学生	進学
	バングラデシュ	国費	男	学寮	上泰	3 E学生	進学
	ラオス	国費	男	学寮	石丸和宏	3 C学生	進学
	マレーシア	マレーシア	女	学寮	八木雅夫	3 A学生	進学
19	マレーシア	マレーシア	男	学寮	松下通紀	3 M学生	進学
	マレーシア	マレーシア	女	学寮	鍋島康之	3 C学生	進学
	ベトナム	国費	男	学寮	鍋島康之	3 C学生	進学
	インドネシア	私費	男	学寮	松下通紀		進学
20	マレーシア	マレーシア	男	学寮	松下通紀	3 M学生	進学
	モンゴル	国費	男	学寮	佐村敏治	4 E学生	進学
	ラオス	国費	男	学寮	荘所直哉	3 A学生	進学
21	マレーシア	マレーシア	女	学寮	史鳳輝	3 M学生	
	モンゴル	国費	男	学寮	佐村敏治	3 E学生	
	ベトナム	国費	男	学寮	佐村敏治	3 E学生	
	マレーシア	マレーシア	女	学寮	鍋島康之	3 C学生	
22	マレーシア	マレーシア	男	学寮	史鳳輝	3 M学生	
	マレーシア	マレーシア	男	学寮	宮本行庸・堀桂太郎	3 E学生	
	モンゴル	国費	女	学寮	工藤和美	3 A学生	

## 5.2 編入学生

入学前の3月中旬に入学オリエンテーションを実施しており、教務主事から本校での生活と学習一般に関するガイダンス、引き続いて専門学科クラス担任等による個別のガイダンスを行っている。さらに入寮者には、学寮生活に関するガイダンスを学寮委員により実施している。このオリエンテーションに先立ち、学生生活のてびき・シラバス・選択科目履修の案内・入学までに必要な自習のてびき・低学年から継続して4年生以上に使用する教科書リスト等を各専門学科教務委員が取り纏め、各編入学生に送付して入学前の準備を支援している。

近年、遠方からの編入学生が増えており事前の学習指導を本校で実施することができない。しかし、工業高校でのカリキュラムに選択科目が増えていることから、編入学生の工業高校での履修科目を事前にチェックし、入学までの学習指導を自習教材等で実施することが必要となってきた。これに関しては入学オリエンテーション以前からの事前指導をするようになった。

入学後は、担任が編入学生と随時連絡をとりながら勉学を指導しており、担任マニュアルに示されているように、必要に応じて各教科担当教員に個別の補充指導を依頼している。

## 6 障害をもつ学生に対する生活・学習支援

### 6.1 キャンパスのバリアフリー化

障害のある学生のため、身障者用トイレやエレベーターを設け、通路・出入り口など学内施設のバリアフリー化を進めている。各施設の設置状況は、表6-6-1のとおりである。なお、主要な出入り口は自動扉に改修しており、廊下の段差もなくされている。

図6-6-1 キャンパスにおけるスロープ・身障者用トイレ・エレベーターの設置  
(平成17年度までの整備箇所を含んだ図を示す)



表6-6-1 学内施設のバリアフリー化実施内容 (平成18年度以降実施分)

年度	月	場所	内容
平成19年	3月	本館1階西出入口	段差解消・スロープ
平成20年	1月	C寮入口	スロープ

## 6.2 発達障害を有する学生の対応

発達障害を有する学生の対応体制を平成21年度にとりまとめ、教職員がチームを組んで対応する体制を整えた。

## 6.3 その他

本校では、心臓に障害のある学生及びスポーツ中の心不全等に備えて、AED（自動体外式除細動器）4台を配備している。またその使用方法についても、講習会を開催するなどして教職員に周知を図っている。

## 7 学生の課外活動に対する支援体制

### 7.1 クラブ活動の実施状況と支援体制

課外活動の一環であるクラブ活動は、心身を鍛練し、協調・融和の精神を育み、体力や忍耐力を養う人間形成の場として、本校では大きなウェイトをおいて指導している。

平成 18 年 1 月段階では、クラブ総数 27（体育系団体 18 クラブ，文化系団体 9 クラブ），11 同好会がある。具体的な構成は表 6-7-1，表 6-7-2 のとおりである。

各団体には、できるだけ実技指導が行えるクラブ顧問を配置し、代表顧問を中心とした複数顧問制をとっている。また、学生会体育局を指導し、クラブ活動がスムーズに行われるよう、休日の体育館の使用割り振り等を実施したり、部室（用具倉庫含む）を 1 クラブに 1 室を割り当てるなど、課外活動の奨励・支援に努めている。

さらに、専門技量を有する教員の配置は容易ではないが、積極的に指導できる教員は顧問の変更を行うとともに、外部コーチを招聘して専門的な指導を行っている。平成 22 年度の外部招聘コーチは、少林寺拳法部 1 名，ラグビー部 3 名，バドミントン部 1 名，茶道部 1 名，合唱団 1 名，吹奏楽部 2 名，野球部 1 名，写真部 1 名の計 11 名である。

クラブ活動に対して、明石高専後援会からも多大な支援を得ている。例えば、高専大会の遠征旅費、各種大会の参加料の補助を受けているほか、表 6-7-3 のように各クラブの連盟登録料についても支援を受けている。

なお、平成 22 年度における高体連所属クラブは、陸上競技部，男子バレーボール部，女子バレーボール部，ソフトテニス部，卓球部，少林寺拳法部，空手道同好会の 6 クラブ・1 同好会である。

表 6-7-1 体育系の課外活動団体及び所属学生数

クラブ名	指導教員数 22年度	年度別学生数									
		18		19		20		21		22	
水泳部	4	12	( 0 )	11	( 0 )	18	( 2 )	24	( 3 )	23	( 1 )
剣道部	3	18	( 2 )	19	( 2 )	25	( 1 )	12	( 1 )	16	( 1 )
柔道部	3	16	( 2 )	12	( 1 )	6	( 1 )	12	( 3 )	8	( 2 )
野球部	5	35	( 1 )	41	( 1 )	44	( 1 )	47	( 1 )	43	( 2 )
体操部	2	23	( 1 )	17	( 0 )	20	( 0 )	16	( 0 )	11	( 0 )
陸上競技部	4	39	( 8 )	39	( 8 )	40	( 8 )	43	( 5 )	42	( 6 )
男子バレーボール部	4	31	( 5 )	24	( 5 )	28	( 5 )	29	( 5 )	18	( 3 )
サッカー部	4	25	( 0 )	24	( 0 )	22	( 0 )	32	( 0 )	21	( 0 )
ハンドボール部	4	16	( 2 )	23	( 2 )	29	( 3 )	22	( 2 )	30	( 3 )
男子バスケットボール部	4	31	( 2 )	33	( 2 )	38	( 4 )	14	( 1 )	30	( 5 )
ソフトテニス部	4	35	( 3 )	46	( 8 )	39	( 5 )	40	( 8 )	39	( 9 )
卓球部	4	27	( 0 )	30	( 0 )	24	( 0 )	23	( 0 )	34	( 7 )
クライミング部	2	12	( 0 )	14	( 0 )	12	( 0 )	12	( 0 )	16	( 0 )
ラグビー部	3	13	( 0 )	19	( 1 )	17	( 3 )	5	( 0 )	6	( 1 )
少林寺拳法部	3	18	( 2 )	15	( 2 )	10	( 4 )	8	( 3 )	2	( 1 )
テニス部	4	40	( 11 )	41	( 10 )	41	( 12 )	29	( 10 )	27	( 8 )
バドミントン部	4	39	( 15 )	49	( 15 )	53	( 16 )	46	( 12 )	39	( 11 )
女子バレーボール部	4	7	( 7 )	9	( 9 )	11	( 11 )	11	( 11 )	10	( 10 )
フットサル同好会*	1	10	( 0 )	9	( 0 )	27	( 0 )	20	( 0 )	26	( 0 )
空手道*	1	8	( 1 )	8	( 1 )	7	( 0 )	9	( 1 )	8	( 0 )
合 計		455	( 62 )	483	( 67 )	511	( 76 )	454	( 66 )	449	( 70 )

注) ( )内は女子で内数、\*は同好会を示す。

表6-7-2 文化系の課外活動団体及び所属学生数

クラブ名	指導教員数 22年度	年度別学生数									
		18		19		20		21		22	
吹奏楽部	5	17	( 7 )	22	( 7 )	34	( 10 )	33	( 10 )	34	( 12 )
写真部	2	9	( 9 )	8	( 4 )	12	( 6 )	9	( 4 )	12	( 5 )
音楽部	3	69	( 7 )	60	( 7 )	66	( 6 )	67	( 8 )	40	( 7 )
ESS	2	2	( 2 )	8	( 5 )	3	( 3 )	7	( 7 )	7	( 7 )
茶道部	3	26	( 26 )	16	( 16 )	17	( 17 )	14	( 14 )	19	( 19 )
グリークラブ/(名称変更) 合唱団Fons Musicae	2	17	( 4 )	15	( 3 )	19	( 4 )	13	( 6 )	17	( 8 )
ロボット工学研究部	5	29	( 0 )	23	( 0 )	27	( 0 )	22	( 2 )	28	( 1 )
情報工学研究部	3	25	( 4 )	18	( 2 )	11	( 1 )	26	( 1 )	39	( 3 )
棋道同好会*	2	10	( 2 )	9	( 0 )	13	( 0 )	12	( 0 )	9	( 9 )
ものづくり研究会*	1	5	( 0 )	10	( 0 )	10	( 0 )	10	( 0 )	12	( 0 )
視覚メディア研究会*	2	12	( 0 )	12	( 0 )	13	( 2 )	13	( 2 )	12	( 1 )
シネマ倶楽部同好会*	1	10	( 0 )	5	( 0 )	5	( 0 )	4	( 0 )	4	( 0 )
イングリッシュガーデン同好会*	1	9	( 6 )	10	( 7 )	11	( 6 )	2	( 2 )	2	( 2 )
ジャグリング同好会*	1	14	( 0 )	6	( 0 )	6	( 0 )	5	( 0 )	3	( 0 )
ゲーム創作研究会*	1	20	( 0 )	6	( 0 )	9	( 0 )	12	( 0 )	7	( 0 )
バーマカルチャー研究会*	2	11	( 2 )	10	( 2 )	9	( 2 )	7	( 2 )	2	0
演劇研究会*	1	-	-	-	-	5	( 1 )	4	( 4 )	8	( 1 )
環境デザイン研究会*	1	-	-	-	-	17	( 7 )	12	( 6 )	7	( 3 )
Web製作研究会*	2	-	-	-	-	-	-	-	-	11	( 1 )
合 計		303	( 69 )	257	( 60 )	307	( 65 )	293	( 68 )	295	( 81 )

注) ( )内は女子で内数、\*は同好会を示す。

表6-7-3 平成22年度 学校負担分 連盟登録料

クラブ名	登録料
吹奏楽部	2,000
写真部	5,000
水泳部	38,600
剣道部	10,080
柔道部	21,900
野球部	55,000
陸上競技部	139,550
男子バレーボール部	60,300
サッカー部	111,200
ハンドボール部	83,210
男子バスケットボール部	56,000
テニス部	32,000
ソフトテニス部	43,080
ラグビー部	23,000
バドミントン部	101,290
少林寺拳法部	15,000
卓球部	33,000
女子バレーボール部	20,300
空手道	13,160
計	863,670

以上のように部・同好会の種類も豊富で多くの学生が所属している。また経済的な支援も積極的に実施している。しかし、本校は全国高専の中でも敷地面積が狭く、体育系のクラブは練習場所の調整に苦勞をしている。グラウンドは正式の試合が行われると残りのスペースは非常に狭く、練習場所を他に求めざるを得ない。屋内競技は体育館が一つしか無いことから交代で体育館を使用しており、個々のクラブでは体育館を練習に使えない曜日が生じている。武道場においても、現在3つの部が武道場



でスペースを分け合っている。また、武道系の同好会は合宿研修所の2階のスペースを利用している。体育館・武道場はともに耐震改修を終えているが、休日利用の需要に伴い引率が必要となるなど、スペースの問題は継続的課題といえる。

また、文化系クラブにおいても、吹奏楽の練習場所が屋内では十分に取れないことやロボットコンテストのためのロボット制作場所に動作確認のための広いスペースが必要であること等、検討すべき課題は多い。

## 7.2 リーダー研修会の実施状況

学生会・寮生会の役員及びクラブの部長を対象にしたリーダー研修会を毎年実施している。そこでは、学内活動の中核を担っている学生と教員が寝食を共にして多くの課題について議論するとともに、各々の学生がリーダーとして学生生活・課外活動のあり方や望ましい人間関係等について理解を深め、リーダーとしての自覚と知識の習得を図ることを目的としている。主な内容は、各団体の運営上の問題点の討議と情報交換、有識者の講演、トレーニングの実技等である。

平成18年度以降行われた研修会の実施状況は、表6-7-4のとおりである。

表6-7-4 リーダー研修の実施状況

年度	期日	場所	参加者
18	6. 14	明石工業高等専門学校 階段教室	体育系・文化系クラブ学生89名、 聴講希望学生・教職員
		「スポーツと応急処置について」 講師 播磨町教育委員会社会教育主事 西尾和典 研修事項 講演と応急処置の実技指導	
19	6. 15 ～6. 16	自然活用村エーデルささゆり (兵庫県多可郡八千代町中野間)	寮生会役員18名、教職員6名
		「それぞれの思い」 講師 明石市立明石商業高等学校 主幹 狭間善徳 研修事項 寮生会役員の責務、寮生活の向上、日課・行事について	
20	4. 25 ～4. 26	高砂市勤労福祉財団「ふれあいの郷生 石」 (兵庫県高砂市阿弥陀町生石)	寮生会役員18名、教職員4名
		「機械科卒の土木技術者の歩んだ道とその思い」 講師 (株)コトー 鈴木一幸 研修事項 寮生会役員の責務、寮生活の向上、日課・行事について	
21	6. 12 ～6. 13	自然活用村エーデルささゆり (兵庫県多可郡八千代町中野間)	寮生会役員16名、教職員6名
		「キャリア形成の重要性について」 講師 MOプランニング 代表 大前駿二 研修事項 寮生会役員の責務、寮生活の向上、日課・行事について	
22	6. 16	明石工業高等専門学校 階段教室	体育系・文化系クラブ代表者36名、 学生会役員9名、 聴講希望学生・教職員
		「リーダーに求められること ーカンリガルポ山群の未踏峰登山の経験を通じて」 講師 兵庫県東播磨県民局まちづくり参事 山田 健	

### 7.3 ロボコン・プロコン・デザコン等への参加

学生の課外活動として、クラブ活動以外に、高専教育の特色を活かした各種のコンテスト等が開催されている。

中でも、「NHK アイデア対決・ロボットコンテスト」は、規模も大きく、また注目度も高い大会であり、本校も第1回大会以来、積極的に参加している。特に、近年は、競技テーマの内容が高度化し、きわめて高いレベルを要求されるようになってきている。そのような中で、学生の自主的・主体的活動を重視する本校の基本的な特色を守り、ロボット工学研究会をはじめとする複数のチームが、夏休みを返上して準備を重ね、取り組んでいる。平成15年度より学内プレロボコンを実施し、複数のチームを競わせて近畿地区大会への選抜チームを決定することとした。1回戦敗退の戦績が続き苦しい状況に陥っていたが、プレロボコンに向けてロボットの完成度を上げるための日常的な取り組みの必要性が指摘されている。全国のレベルはなお高いが、今後も、学生の自主性を尊重しながら支援を強化していくことが求められる。

高専生が情報処理技術において優れたアイデアと実現力を競うプログラミングコンテストにも、引き続き参加している。

国立高専が独立行政法人化した平成16年度、環境都市系学科、土木・建設系学科と建築学科を中心にした、高専全体の取組に向けて、「人が生きる生活環境を構成するための総合的技術」として「デザイン」の領域を根本的に捉え直し、ここに全国高等専門学校デザインコンペティションが開催されることとなった。特に、平成16年度の第1回以降、「全国高専デザインコンペティション」では、全国から参加した学生たちと競い合い、毎回優秀な成績を上げている。

平成20年度より開催されるようになった英語プレゼンテーションコンテストにも積極的な参加者があり、近畿地区の予選を経て、全国大会に参加している。

表6-7-5 アイデア対決-ロボットコンテスト近畿地区大会 開催・参加状況

年月日	会場	主管校	競技テーマ	参加チーム名	結果
平成18年 10月22日	四條畷市立市民総合体育館	大阪府立高専	ふるさと自慢特急便	祝御前 (イワイゴゼン)	1回戦敗退 特別賞
				FINAL FANたこお (ファイナルファンタコオ)	1回戦敗退
平成19年 10月28日	高砂市総合体育館	明石高専	風林火山 ロボット騎馬戦	AT-67 (エーティーロクナナ)	2回戦敗退 特別賞
				Gibral Taco (ジブラル タコ)	2回戦敗退
平成20年 10月5日	御坊市立体育館	和歌山高専	ROBO- EVOLUTION 生命 大進化	三葉橋龍 (クローバードラゴン)	1回戦敗退 生命大進化賞
				KAMeDAS (カメダス)	準決勝敗退 技術賞
平成21年 10月25日	神戸市立中央体育館	神戸高専	DANCIN' COUPLE	明石原人 (アカシゲンジン)	1回戦敗退 特別賞
				たこめ (タコメ)	1回戦敗退
平成22年 10月17日	舞鶴文化公園体育館	舞鶴高専	激走！ロボ力車	Trident Tank (トライデント タンク)	1回戦敗退
				あにまる Clothes (アニマルクローズ)	2回戦敗退 特別賞

表6-7-6 全国高専デザインコンペティション 開催・参加状況

年月日	会場	主管校	メインテーマ	参加部門	作品名	結果	
平成18年 11月17,18日	メインホテルナ カムラ ウエルネス交 流プラザ 千日通り商店 街	都城高専	/	構造	〇〇ツ丸見え 友情の架け橋	佳作	
				環境	山あいの多目的室	最優秀賞 (宮崎県知事賞)	
					木こりの家家	佳作	
					みんなの庭道 十。。。	優秀賞	
					「Renovation the Closing of School」- 廃校再計画 -	佳作	
					かみの灯	佳作	
					自分の町が好き	佳作	
					棚田APART	佳作	
				プロポーザル	すぎ風呂つく(あしゆ)	最優秀賞 (都城市長賞)	
平成19年 11月16,17日	周南市総合ス ポーツセン ター	徳山高専	つながり	構造	明石高専大橋		
				空間	住居のFRAGMENT	優秀賞	
					い木の間 「下に集い、上に住まう」		
				ものづくり	ぐるりん Patch Plume Peacock: 白羽	審査員特別賞	
平成20年 12月13,14日	四国電力(株) 総合研究所 高松南新町商 店街	高松高専	共生と再生	構造	名もなき橋 Laban Lone		
				環境	あつ地 こつ地 しつ地 ぱつ地 わーく	最優秀賞 (国土交通大臣賞)	
					ため池にチナンパを作ろう	優秀賞	
				空間	引出し商店街 中心街再生-もとまち-		
					cube cafe		
					森のマーケット	優秀賞	
					ぼすくーるん* うらに住む		
ものづくり	TACO						
平成21年 11月14,15日	スカイホール 豊田	豊田高専	やさしさ	構造	明石三方向おむすび橋 無りっじ		
				環境	日用ろ過装置 はなさか装置	審査員特別賞	
					空間	Edible Façade	優秀賞
平成22年 11月13,14日	八戸公会堂・ 公民館	八戸高専	もったい ない	構造	akashi bridge SINPLEデザインシリーズTHE橋		
					環境	井戸普及計画 堅穴住居復元プロジェクト LONG LONG WATER WAY 雨と光の水舟風水槽	
				空間		エコんたな gartenkuche-食を楽しむ空間を作る-	
						おっきいゆか	最優秀賞 (青森県知事賞)
					ちくたく	優秀賞	
				ものづくり	KUNEKUNE STAND Colorful wall	審査員特別賞	

表6-7-7 プログラミングコンテスト 開催・参加状況

年月日	会場	開催世話校	競技部門テーマ	参加タイトル	結果
平成18年 10月7,8日	茨城工業高等専門学校	茨城高専	片付けマス	ニジマス	二回戦敗退
平成19年 10月6,7日	津山文化センター	津山高専	石垣工務店	こい	一回戦敗退
平成20年 10月11,12日	いわき明星大学	福島高専	フラッと収穫車	リュウグウノツカイ	準決勝戦敗退
平成21年 10月17,18日	かずさアカデミアホール	木更津高専	何色？サッと見 発見伝	あめふらし	準決勝戦敗退
平成22年 10月16,17日	高知市文化プラザかるぼーと	高知高専	水瓶の恵み ー緑と水のネットワークー	ネオンテトラ	敗者復活戦敗退

表6-7-8 近畿地区英語プレゼンテーションコンテスト 開催・参加状況

回	年月日	会場	主管校	部門	出場者数	結果
第1回	平成19年 12月15日	京都テルサ	舞鶴高専	スピーチの部	低学年の部2名	1位
					高学年の部2名	2位
					留学生の部1名	1位
第2回	平成20年 11月15,16日	明石高専	明石高専	スピーチの部	2名	1位
				プレゼンテーションの部	1チーム	特別賞
第3回	平成21年 11月14,15日	奈良高専	奈良高専	スピーチの部	2名	1位 3位
				プレゼンテーションの部	1チーム	2位
第4回	平成22年 1月16,17日	和歌山市民会館	和歌山高専	スピーチの部	2名	2位 3位
				プレゼンテーションの部	1チーム	2位

表6-7-9 全国高専英語プレゼンテーションコンテスト 開催・参加状況

回	年月日	会場	主管校	部門	出場者数	結果
第1回	平成20年 1月26,27日	国立オリンピック 記念青少年総合 センター	大分高専	スピーチの部	1名	2位
第3回	平成22年 1月16,17日		香川高専	スピーチの部	1名	
				プレゼンテーションの部	1チーム	
第4回	平成23年 1月29,30日	長野高専	スピーチの部	1名		
			プレゼンテーションの部	1チーム	特別賞	

#### 7.4 学生会の活動状況

学生会は、学校の指導・助言を通して、学生の自発的な活動をもとに人間形成の充実を図ることを目的としている。

学生会の組織は、報道局、文化局、体育局、環境局からなり、文化局・体育局・環境局には学生委員会教員各1名を指導教員として配置し、学生の相談窓口となっている。

学生会は、学生会費（年額4,800円/人）と入会金（2,000円/人）により運営されている。年間予算規模は450万円程度である。主な支出は、高専祭の補助、文化局・体育局等の活動費、役員の活動費、卒業記念品代等である。また、学生会報（不定期）及び卒業文集『子午線』を発行している。

学生会行事として、クラブ・同好会紹介、体育祭、球技大会、文化発表会、高専祭、サッカー大会等を開催し、多くは学校行事と位置づけられ、全学生が参加し、活動している。

特に最大の行事である高専祭は、企画性に富む独自の内容を創り上げる努力が積み重ねられてきており、展示内容も充実してきている。必要に応じて指導教員の支援を受けながら計画・実施しているが、同時に高専祭実行委員会も、高い準備・運営能力を発揮し様々な工夫を重ねている。

学生会の本来の目的にてらしても、このような自主的で主体的な学生の取組は、きわめて望ましいものであり、今後もこのような活動を学校全体として強力に支援していくことが求められる。

表6-7-10 高専祭の開催状況

年度 (平成)	テーマ	日程概要	
		1日目	2日目
18	青春三級	11月3日(金)9:30～19:00	11月4日(土)9:30～19:00
19	大収穫 my best your best harvest	11月3日(土)9:30～19:00	11月4日(日)9:30～19:00
20	てづくり～祭で描く空色CANVAS～	11月1日(土)9:30～19:00	11月2日(日)9:30～19:00
21	ふわりとどける 幸せの種	インフルエンザ発生のため中止	
22	極祭色-gokusai shoku-	10月30日(土)9:30～19:00	10月31日(日)9:30～19:00

## 8 学生の生活や経済面に係わる支援体制

### 8.1 奨学金制度、授業料免除の状況

#### (1) 学科学生を対象とする奨学金受給状況

奨学金は、日本学生支援機構のほか、各市町村・公益法人及びその他の団体からの奨学金を受け入れている。過去7年間の受入状況は次表のとおりである。

日本学生支援機構の奨学金については、全体の受給者数は年によって差があるが、平成6～10年度にくらべて、在学生に対する割合は増加している。学年別では顕著な特徴はみられないが、概ね4・5年生の受給者数が多いという点では、以前と同様の傾向が続いている。

各市町村・公益法人及びその他の団体からの奨学金は、平成17年度においては、27名の学生が受給している。

表6-8-1 各市町村・公益法人の団体による奨学金制度（平成22年度）

団体	名称	受給者数	団体	名称	受給者数
自治体	稲美町奨学金	1	公益法人	あしなが育英会	1
	三田市奨学金	1		(財)寺浦奨学会	2
	三木市奨学生	1		(財)中西奨学会	3
	神戸市奨学金	5		(財)天野工業技術研究所	1
	西宮市教育委員会奨学金	3		(財)日工記念事業団	2
	大阪府育英会	2			
	兵庫県高等学校奨学資金	17			
小計		30	小計		9
		合計			39

表6-8-2 日本学生支援機構及びその他の奨学生数の年度別一覧表

年度 (平成)	学年	日本学生支援 機構の奨学生	その他の 奨学生数	計	在 student 数	对在 student 比 (%)
18	1	3	10	13	169	7.7
	2	13	6	19	167	11.4
	3	6	4	10	167	6.0
	4	16	11	27	170	15.9
	5	12	5	17	166	10.2
	計	50	36	86	839	10.3
19	1	17	3	20	169	11.8
	2	5	11	16	164	9.8
	3	14	5	19	167	11.4
	4	10	5	15	171	8.8
	5	18	13	31	158	19.6
	計	64	37	101	829	12.2
20	1	10	4	14	166	8.4
	2	17	4	21	166	12.7
	3	5	11	16	166	9.6
	4	14	4	18	171	10.5
	5	10	5	15	165	9.1
	計	56	28	84	834	10.1
21	1	10	5	15	166	9.0
	2	13	7	20	169	11.8
	3	17	6	23	165	13.9
	4	6	12	18	167	10.8
	5	15	7	22	168	13.1
	計	61	37	98	835	11.7
22	1	16	2	18	169	10.7
	2	10	9	19	168	11.3
	3	15	10	25	163	15.3
	4	20	5	25	170	14.7
	5	10	13	23	165	13.9
	計	71	39	110	835	13.2
5年間の平均		60	35	96	834	11

## (2) 学科学生を対象とする授業料免除実施状況

授業料免除制度は、経済的理由によって授業料の納付が困難であり、かつ学業が優秀と認められる場合及びその他やむを得ない事情があると認められる場合に、授業料の全額若しくは半額を免除する制度で、過去7年間の免除実施状況は次表のとおりである。

表6-8-3 授業料免除の実施状況（年度別一覧）

年度	在学者数	免除希望者数	全額免除者数	半額免除者数	
18年度	(前期)	839	74 (8.8)	43 (5.1) [81.1]	10 (1.2)
	(後期)	835	71 (8.5)	39 (4.7) [76.5]	12 (1.4)
19年度	(前期)	829	73 (8.8)	44 (5.3) [88.0]	6 (0.7)
	(後期)	824	70 (8.5)	37 (4.5) [68.5]	17 (2.1)
20年度	(前期)	834	67 (8.0)	43 (5.2) [91.5]	4 (0.5)
	(後期)	834	58 (7.0)	38 (4.6) [77.6]	11 (1.3)
21年度	(前期)	835	71 (8.5)	45 (5.4) [95.7]	2 (0.2)
	(後期)	834	63 (7.6)	35 (4.2) [77.8]	10 (1.2)
前期平均	834.3	71.3 (8.5)	43.8 (5.2) [88.8]	5.5 (0.7)	
後期平均	831.8	65.5 (7.9)	37.3 (4.5) [74.9]	12.5 (1.5)	
各期平均	833	68.4 (8.2)	40.5 (4.9) [81.8]	9.0 (1.1)	
※22年度以降は4・5年生のみが対象					
22年度	(前期)	335	34 (10.1)	18 (5.4) [90.0]	2 (0.6)
	(後期)	334	29 (8.7)	16 (4.8) [80.0]	4 (1.2)

(注)( )内は各項目の在学者数に対する割合(%を、[ ]は免除者のうち全額免除となった者の割合(%を)を表す

全体的な傾向としては、平成11年～17年にくらべて、希望者数・免除者数ともにほぼ同様の傾向にある。学生に対しては、「学生生活のてびき」や掲示板、担任等を通じて案内を徹底しており、また家計・成績・人物等を考慮し公平で明確な基準に基づき、対象者を選考している。

### (3) 専攻科学生を対象とする授業料免除・奨学金受給状況

専攻科学生を対象とする授業料免除・奨学金受給について、過去5年間の状況を次表のとおりである。いずれも年度により差はあるが、1割程度の学生に機会を与えることができている。条件に応じて適切に対応している。

表6-8-4 専攻科での授業料免除実施状況

年度		在学者数	免除希望者数		全額免除者数			半額免除者数	
18年度	(前期)	48	5	(10.4)	3	(6.3)	[75.0]	1	(2.1)
	(後期)	48	5	(10.4)	2	(4.2)	[50.0]	2	(4.2)
19年度	(前期)	52	2	(3.8)	0	(0.0)	[0.0]	0	(0.0)
	(後期)	52	2	(3.8)	0	(0.0)	[0.0]	2	(3.8)
20年度	(前期)	59	8	(13.6)	4	(6.8)	[100.0]	0	(0.0)
	(後期)	59	2	(3.4)	1	(1.7)	[100.0]	0	(0.0)
21年度	(前期)	63	5	(7.9)	1	(1.6)	[100.0]	0	(0.0)
	(後期)	61	3	(4.9)	0	(0.0)	[0.0]	3	(4.9)
22年度	(前期)	64	7	(10.9)	3	(4.7)	[50.0]	3	(4.7)
	(後期)	61	2	(3.3)	1	(1.6)	[50.0]	1	(1.6)
前期平均		57.2	5.4	(9.4)	2.2	(3.8)	[73.3]	0.8	(1.4)
後期平均		56.2	2.8	(5.0)	0.8	(1.4)	[33.3]	1.6	(2.8)
各期平均		56.7	4.1	(7.2)	1.5	(2.6)	[55.6]	1.2	(2.1)

(注) ( )内は各項目の在学者数に対する割合(%)を、[ ]は免除者のうち全額免除となった者の割合(%)を表す

表6-8-5 専攻科学生の奨学金受給状況

年度 (平成)	学年	日本学生支援機構の奨学生数			对在学比 (%)	在学学生数
		ME専攻	AC専攻	合計		
18	1	1	0	1	2.1	48
	2	3	3	6	12.5	
	計	7			14.6	
19	1	1	2	3	5.8	52
	2	1	3	4	7.7	
	計	7			13.5	
20	1	0	0	0	0.0	59
	2	1	2	3	5.1	
	計	3			5.1	
21	1	0	0	0	0.0	63
	2	1	2	3	4.8	
	計	3			4.8	
22	1	0	0	0	0.0	64
	2	1	4	5	7.8	
	計	5			7.8	
5年間の平均		5			8.7	57.2

## 8.2 生活指導

学生の喫煙・飲酒は禁止している。また、平成15年9月より、教職員も含めて構内全面禁煙とした。ただし、5年生以上で満20才に達している者は、校内に設置した5ヶ所の喫煙場所で喫煙することを認めている。喫煙・飲酒については、「学生生活のてびき」に掲載して注意を喚起するとともに、始業式などの全校集会やホームルームなどでも注意を繰り返している。しかし、喫煙・飲酒を皆無にすることは難しく、実際は直接学生に指導している件数以上に多いと思われる。この指導は、特に家庭での保護者の協力も得なければ効果が上がらないので保護者との連絡を密にしなければならない。そのため、指導に際しては原則として保護者にも来校してもらい、本人・保護者と学校側の三者で話し合い、禁煙・禁酒の徹底を期している。必要に応じて、健康教育の観点から、1・2年生の合同ホームルームとして健康に関する話を専門家をお願いしている。

車両による通学は、それに伴う危険の重大性ゆえに、3年生以下は禁止、4年生以上の学生も特別に校長が許可した者以外は禁止している。自転車による通学についても、学生課に届け出て登録することを義務づけ、盗難防止を含む管理を徹底している。

アルバイトは、それが習性となって学習意欲を喪失させ、生活を乱してしまう危険性が大きいので、1～3年生については原則として禁止し、4～5年生についてはできるだけしないように指導している。経済的な理由等によってアルバイトをせざるをえない状況にあるときは、担任を通じて学生委員会の承認を得ることとしている。

服装については、「学生生活のてびき」に、華美なものや奇異なものを避け、常に清潔・端正で学生生活の場にふさわしい服装にすること、学校行事や学校が指定した場合にはスーツ・ブレザーなど行事に参加するのにふさわしい服装を着用することなどを記して、学生に示している。

## 8.3 健康管理と怪我等の災害発生

学校保健法に基づき毎年4月～6月に定期健康診断を実施し、学生の健康保持と増進に努めている。

保健室には看護師が常勤し、疾病・障害等に応急処置を行っている。学校管理下における傷病などの過去7年間の発生状況は、次表のとおりである。これは、保健室を経由して日本スポーツ振興センターに災害給付を申請した件数を示すものである。

表6-8-6 学校管理下における災害発生状況

区分	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
授業中	13	13	24	9	15
クラブ活動	46	49	40	56	57
学校行事	1	4	0	1	1
体育行事	7	1	2	1	2
休憩中	3	2	3	5	3
放課後	0	0	2	2	0
登下校	1	4	0	2	1
学寮	0	0	0	0	2
計	71	73	71	76	81

注) 保健室を経由して日本スポーツ振興センターへ災害給付を申請した件数を示す。



21年度までの過去4年間の総件数は、291件で年平均は約73件である。平成11～17年度の年間平均64件にくらべて、全体的にやや増加傾向にあることがわかるが、これは実態的な件数の増加というよりも、申請数の増加であると考えられる。

発生別では、クラブ活動中が、191件で全体の66%を占め、依然として割合は高い。発生別の割合については、従来の傾向が続いていることを示している。

このほか保健室では健康相談日を設けて校医による健康相談を行い、疾病の早期発見と指導を期している。

## 8.4 表彰

学生の課外活動を点検・評価し、優れた成果をあげている学生を支援・表彰している。

学生の表彰は、平成14年度からは、「学業成績優秀賞」、「学術奨励賞」、「課外活動優秀賞」、「学生会功労賞」、「寮学生会功労賞」、「善行賞」、「特別賞」の各賞を新たに設けてそれぞれの基準を定め、推薦に基づき、学生委員会において選考している。各賞の表彰実施状況は、以下のとおりである。

表6-8-7 各種の表彰

「校内体育大会における表彰」

年度	クラス	校内体育大会実績	
18	4E	平成18年度校内体育大会	年間総合優勝
19	4E	平成19年度校内体育大会	年間総合優勝
20	4M	平成20年度校内体育大会	年間総合優勝
21	4E	平成21年度校内体育大会	年間総合優勝
22	5M	平成22年度校内体育大会	年間総合優勝

「学術奨励賞」

年度	対象	学術実績	
18	1名	平成18年度土木学会関西支部年次学術講演会 第Ⅱ部門	優秀発表賞
	3名	2006年度日本建築学会設計競技	タジマ奨励賞
	4名	産学官技術フォーラム'06 ポスターセッション	優秀ポスター賞
	1名	産学官技術フォーラム'06 オーラルセッション	優秀オーラル賞
	1名	平成18年度土木学会全国大会第61回年次学術講演会	優秀講演者賞
19	3名	産学官技術フォーラム'07 ポスターセッション	優秀ポスター賞
	2名	産学官技術フォーラム'07 オーラルセッション	優秀オーラル賞
20	1名	平成19年度高専連携教育研究プロジェクト学生成果発表会	豊橋技術科学大学長表彰
	1名	平成20年度土木学会関西支部年次学術講演会 第Ⅲ部門	優秀発表賞
	1名	日本高専学会第14回年会講演会 ポスターセッションの部	優秀賞
	1名	産学官技術フォーラム'08 ポスターセッション	優秀ポスター賞
	1名	産学官技術フォーラム'08 オーラルセッション	優秀プレゼン賞
	3名	2008年度日本建築学会設計競技	タジマ奨励賞
	1名	日本建築家協会「全国学生卒業設計コンクール」	審査員特別賞
	1名	日本高専学会教育表彰	論文奨励賞最優秀賞
21	1名	産学官技術フォーラム'09 ポスターセッション	優秀ポスター賞
	1名	産学官技術フォーラム'09 オーラルセッション	優秀発表賞
	1名	日本高専学会教育表彰	論文奨励賞最優秀賞
22	1名	平成22年度土木学会関西支部年次学術講演会 第Ⅱ部門	優秀発表賞
	1名	平成22年度土木学会関西支部年次学術講演会 第Ⅲ部門	優秀発表賞
	1名	平成22年度土木学会関西支部年次学術講演会 第Ⅴ部門	優秀発表賞
	1名	日本材料学会第9回地盤改良シンポジウム	優秀発表者賞
	1名	日本高専学会第16回年会講演会 ポスターセッションの部	最優秀賞
	1名	日本高専学会第16回年会講演会 ポスターセッションの部	優秀賞
	1名	産学官技術フォーラム'10 ポスターセッション	優秀ポスター賞
	1名	産学官技術フォーラム'10 オーラルセッション	優秀プレゼン賞

表6-8-7 各種の表彰(続き)

## 「課外活動優秀賞」

年度	対象	課外活動実績	
18	1名	第41回全国高専体育大会 陸上競技 女子走幅跳	準優勝
	1名	第41回全国高専体育大会 柔道 男子90kg超級	準優勝
	7名	第41回全国高専体育大会 柔道 男子団体	準優勝
	1名	平成18年度全国高専女子柔道選手権大会 48kg級	準優勝
	5名	全国高専デザインコンペティション2006in都城 環境デザインコンペティション	最優秀賞
	1名	全国高専デザインコンペティション2006in都城 環境デザインコンペティション	優秀賞
	4名	全国高専デザインコンペティション2006in都城 プロポーザルコンペティション	優秀賞
	15名	第6回大阪ヴォーカルアンサンブルコンテスト 青少年部門外国曲の部	金賞
19	1名	第42回全国高専体育大会 柔道 女子個人48kg級	優勝
	1名	第42回全国高専体育大会 柔道 男子個人73kg級	準優勝
	1名	第42回全国高専体育大会 陸上競技 女子走幅跳	準優勝
	9名	第42回全国高専体育大会 女子バレーボール	準優勝
	1名	第42回全国高専体育大会 水泳 男子100mバタフライ	準優勝
	2名	少林寺拳法兵庫県大会兼第61回兵庫県民体育大会 組演武女子一般二段の部	最優秀賞
	5名	全国高専デザインコンペティション2007in周南 空間デザインコンペティション	優秀賞
	3名	「ACM/ICPC」アジア予選東京大会	16位
	8名	シュルター学生設計競技2007	奨励賞
	1名	第1回全国高専英語プレゼンテーションコンテスト スピーチの部	第2位
20	1名	日本建築家協会近畿支部「学生卒業設計コンクール」	佳作
	1名	東播地区高等学校総合体育大会 バレーボール競技 一部リーグ	優秀選手賞
	1名	第62回兵庫県民体育大会 山岳競技 少年男子の部	第2位
	9名	第52回兵庫県高等学校総合体育大会 バドミントン競技	第5位
	1名	第43回全国高専体育大会 陸上競技 女子走幅跳	優勝
	1名	第51回兵庫県高等学校ジュニア選手権水泳競技大会 1年男子100mバタフライ	第1位
	5名	全国高専デザインコンペティション2008in高松 環境デザインコンペティション	最優秀賞(国土交通大臣賞)
	3名	全国高専デザインコンペティション2008in高松 環境デザインコンペティション	優秀賞
	3名	全国高専デザインコンペティション2008in高松 空間デザインコンペティション	優秀賞
21	1名	第63回兵庫県民体育大会 山岳競技 少年男子の部	第1位
	1名	第63回兵庫県民体育大会 山岳競技 少年男子の部	第3位
	6名	第53回兵庫県高等学校総合体育大会 バドミントン競技	第5位
	2名	2009日本ストックホルム青少年水大賞	審査部会特別賞
	1名	第44回全国高専体育大会 陸上競技 やり投げ	優勝
	2名	第44回全国高専体育大会 テニス 男子ダブルス	優勝
	1名	第44回全国高専体育大会 水泳 男子200m自由形	準優勝
	2名	パソコン甲子園2009 プログラミング部門	第5位
	1名	第15回学生CGコンテスト 静止画像部門	奨励賞
	1名	京都大学ベンチャー・ビジネスラボラトリー主催 「テクノ愛」発明&事業化プランコンテスト	入賞
	1名	全国高専デザインコンペティション2009in豊田 空間デザインコンペティション	優秀賞
	22	1名	第45回全国高専体育大会 陸上競技 やり投げ
9名		第45回全国高専体育大会 バドミントン 男子団体	準優勝
3名		第17回全国高専将棋大会 団体戦	準優勝
1名		第17回全国高専将棋大会 個人戦	準優勝
1名		全国高専デザインコンペティション2010in八戸 空間デザインコンペティション	最優秀賞(青森県知事賞)
2名		全国高専デザインコンペティション2010in八戸 空間デザインコンペティション	優秀賞
1名		平成22年度兵庫県高等学校空手道新人大会 男子個人形	第3位
1名		全国高専デザインコンペティション2010in八戸 空間デザイン部門	最優秀賞
1名		全国高専デザインコンペティション2010in八戸 空間デザイン部門	優秀賞
2名		テクノ愛2010発明&事業化プランコンテスト 高校の部	入賞

表 6-8-7 各種の表彰（続き）

## 「学生会功労賞」

年度	対象	功労実績
20	1名	3年以上にわたり学生会役員として活躍

## 「寮生功労賞」

年度	対象	功労実績
18	1名	第3学年から3年間にわたり寮生会役員として活躍
19	1名	第3学年から3年間にわたり寮生会役員として活躍
20	1名	第3学年から3年間にわたり寮生会役員として活躍
21	1名	第3学年から3年間にわたり寮生会役員として活躍
22	1名	第3学年から3年間にわたり寮生会役員として活躍

## 「特別賞」

年度	対象	実績
18	1名	第1回ニッケPure Heartエッセー大賞
	2名	在学中に学生表彰を3回以上受賞
19	1名	「アートポートステーション・西元町」第4回大壁画コンペ
	1名	大阪芸術大学主催『“世紀のダ・ヴィンチを探せ！”高校生アートコンペティション2007』
	1名	在学中に学生表彰を3回以上受賞
20	3名	在学中に学生表彰を3回以上受賞
21	4名	在学中に学生表彰を3回以上受賞
22	2名	在学中に学生表彰を3回以上受賞

これらとは別に、日本機械学会、日本建築協会、全国高専土木工学会より、それぞれの学科で優秀な学生に対して「日本機械学会畠山賞」「日本建築協会賞」「全国高専土木工学会近藤賞」が贈られることになっており、例年、卒業式の当日に表彰されている。

## 8.5 学生相談

学習、学校生活、課外活動、寮生活、家庭生活、交友関係、異性問題、人生観、進路など、学生が一人では解決できないような問題に直面した際に、これを手助けする学生相談制度を整備してきている。

平成22年度の学生相談室は、学生相談室長教員1名、学生相談室教員4名、学生相談室看護師1名、学生相談室カウンセラー1名の、計7名で構成され、学生個人のプライバシーを保護するため、独立した組織として学生に接している。

学生からの相談を受ける以外に、学生を対象とするVIP職業興味検査やエコグラム（性格検査）などを実施しているほか、4月には、新入生を対象とする茶話会を行っている。また「相談室だより」を発行している。これらを通じて、学生にとって利用しやすい環境を整える努力を重ねている。

また、年2回程度の教員研修会を開催し、問題を抱えた学生への支援方法について教員の認識を深めることにも努めている。スクールカウンセラーによる講演と討議・実習を行っている。

さらに、近年は特に精神衛生面の支援がとりわけ必要性を増してきていることから、スクールカウンセラーは毎週1回、精神科医は毎月1回、来校して相談にあたっている。精神科医については来校日以外にも通院による診察が可能である。各年度の相談件数は、以下のとおりである。

表6-8-8 カウンセリングの年度別件数

年度	相談者	カウンセラー		精神科医師	
		各件数	延件数	各件数	延件数
18年度	学 生	33	52	8	12
	保護者	13		3	
	教職員	6		1	
19年度	学 生	10	13	8	10
	保護者	0		0	
	教職員	3		2	
20年度	学 生	60	78	11	12
	保護者	9		0	
	教職員	8		1	
21年度	学 生	32	69	0	0
	保護者	19		0	
	教職員	18		0	
22年度	学 生	49	86	11	25
	保護者	6		1	
	教職員	31		13	
年平均 18～22年度	学 生	36.8	59.6	7.6	11.8
	保護者	9.4		0.8	
	教職員	13.2		3.4	
年平均 14～21年度	学 生	25.8	35.5	9.9	14.4
	保護者	5.8		0.4	
	教職員	4.0		4.1	

## 9 寮生活

### 9.1 寮の目的と指導理念

高専における学生寮は、教育寮としての位置づけがなされており、大学や企業における福利厚生寮とは基本的な立場が異なっている。

本校の学寮規程第1条（目的）に「本学に学寮を置き、寮生の勉学に適する環境において、規律ある共同生活を体験させ、これを通じて人間形成に資することを目的とする。」とあり、この目的とする人間形成の具体的目標として共同生活を通じて次の教育成果を期待している。

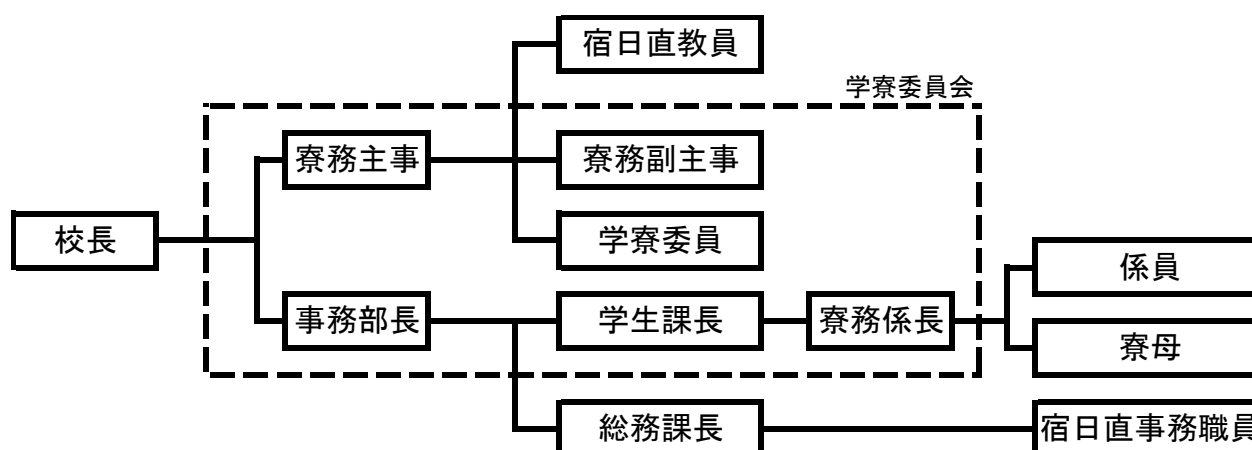
- (1) 基本的な生活習慣を確立する。
- (2) 協調性や公共心を涵養する。
- (3) 友情を育む。
- (4) 自主性、積極性を養う。
- (5) 指導性を育てる。

このような教育成果を実現するため、学寮は一定基準以上の住環境と食生活を安価に提供し、学生の経済的負担の軽減を図るとともに、学内に設置している利便性を活用し、学習、クラブ活動、余暇活動に専念できるような環境を整えることが求められる。それと同時に日々の生活を通じての指導や、健康管理のための体制を充実することも重要である。

### 9.2 寮の運営状況

図6-9-1に示す運営組織により、学寮の管理運営を行っている。本校の学寮は教育寮であるが、全寮制ではなく任意寮となっている。このため寮監の定員がなく、この点で全寮制高専の学寮運営組織とは大きく異なる。

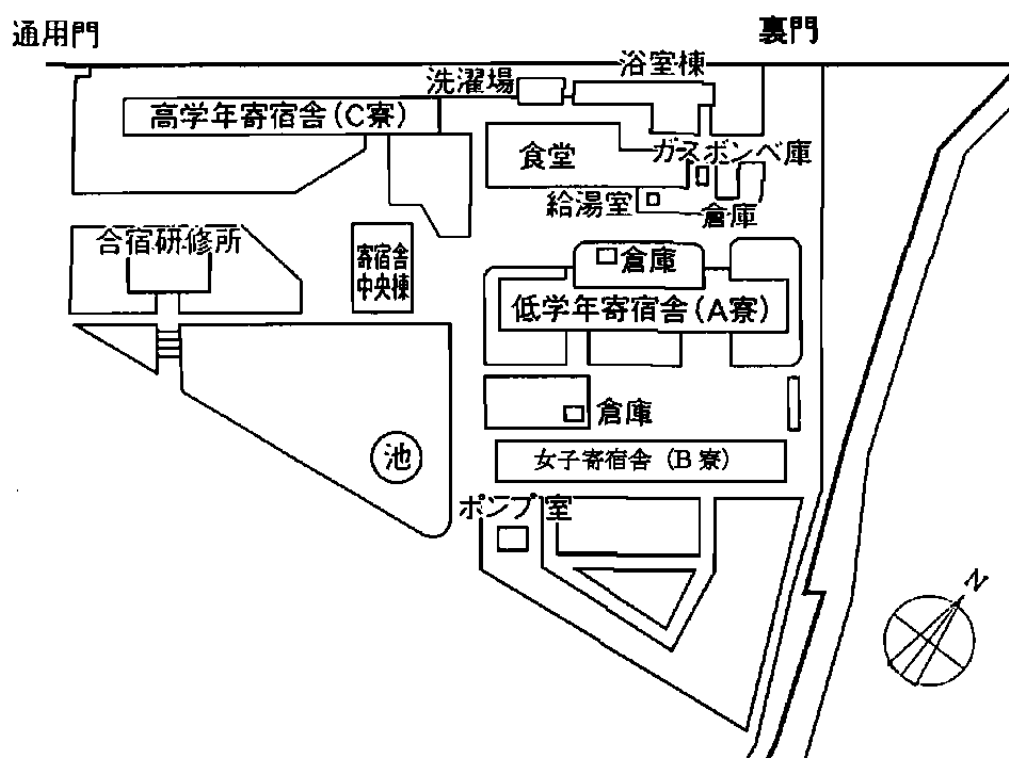
図6-9-1 学寮の運営組織図



#### (1) 設置状況

図6-9-2に学寮の配置図を示す。寮生の居室はA、B、Cの3棟からなり、基本的には、A寮は1～2年生の男子低学年、B寮は女子、C寮は3～5年生の男子高学年の寮となっている。居室の定員は、原則としてA寮が3人部屋、B寮が1人部屋、C寮が2人部屋である。各寮とも寮長、副寮長及び指導寮生など指導的立場に立つ寮生の居室は個室となっている。

図6-9-2 学寮配置図



## (2) 学寮委員会

運営組織図（図6-9-1）に示すように、学寮委員会は次の委員により構成されている。

### < 教員 >

寮務主事，寮務副主事（各科の寮務委員を兼務），寮務委員（専門学科及び一般科目の教員）

### < 事務 >

学生課長，寮務係長

学寮委員会は、学寮の運営及び寮生の補導厚生全般に関する事項について審議し、この審議を踏まえて学寮の管理運営を行っている。特に、寮務主事を中心とした学寮委員の教員は、委員会での審議業務のみならず、寮生の生活や行事などにおいてもきめ細かい指導を担当している。一方、寮生が寮内で生活する主な時間帯が夜間となるために、学寮に関係する教職員の負担が非常に大きくなっている。また、学寮委員会以外では、教員が輪番制で宿日直に従事し、寮生の安全管理や生活支援を行っている。宿日直については、事務系職員1人も輪番制で従事している。

## (3) 寮務係

学寮委員会の審議を踏まえ、定常的な業務を中心に学寮の管理運営に当たっている。寮務係では、寮生サービスを行う窓口業務の占める割合が大きいため、特に授業開始前や昼休みなどの時間帯に業務が集中している。

寮生の生活・健康管理については、非常勤職員である寮母が担当している。寮母は、平日の8時30分から11時30分までと19時から22時まで勤務し、1時間目の授業開始に合わせて全寮生の起床確認と、遅刻学生の指導、病人の発見などの業務を行っている。また、夜間は、主に女子寮生の生活習慣や健康相談に応じている。

## (4) 寮生会

寮生会は、規律ある共同生活を自主的に運営し、寮生の人間形成を図ることを目的としている。役員会は、全寮寮長、全寮副寮長、各寮寮長、各寮副寮長及び内務、文化、保健衛生、食堂、会計、体育、防災、ゴミの各委員長と書記から構成され、寮生会の運営に関する事項を審議し、その執行に当たっている。

## (5) 食 堂

食堂は、寮設置当初は学校直営であったが、現在は委託業者によって運営している。現在の食費は日額970円で、その内訳を表6-9-1に示す。

表6-9-1 食費の内訳 単位：円

区分	朝	昼	夕	計
給食材料費	160	210	310	680
人件費	65	75	100	240
光熱費	15	15	20	50
計	240	300	430	970

寮生会役員の中で決められる食堂委員は、毎年1回、給食改善のための寮生へのアンケートを実施している。そこでの要望は献立に関するものが主であるが、運営に関しては、長時間クラブ活動ができるように食事時間を延長してほしいという要望が強い。このため、高専体育大会に向けて遅くまでクラブ活動を行うこととなる前期中間試験終了後から、夏休みまでの期間については食事時間の30分延長措置を講じている。

## (6) 清 掃

廊下、階段、洗面所、便所等の共用部分の清掃については、業者委託（週4日1人）で行っている。そのための費用として、寮生1人あたり月額800円を徴収している。居室の清掃については寮生の自覚に任されている。閉寮時の点検などから見て、個人差はあるものの概ね良好な清掃状況である。

平成15年度から、寮内で生じたゴミを分別して、明石市清掃局に回収してもらうシステムを実現した。これは、寮生役員会を中心として、問題提起やアンケートを実施してきた成果である。

各寮において輪番制で決められるゴミ出し当番の学生は、分別状況を指導寮生に確認してもらった後に回収場所へ持っていくルールになっている。また、回収場所では、寮生役員会の担当学生が立ち番をしており、ルール通りにゴミが出されているかどうかをチェックしている。

現在では、明石委市回収の分別ゴミ出しに加えて、業者による月に1回程度の段ボールや本などの集団回収も実施しており、極めて順調に機能している。

## 9.3 寮生活の指導

教育寮として、寮生が健全な学生生活を送ることができるように、下記のような指導、助言、措置を行っている。

## (1) 日常生活

寮生の日課は、表6-9-2のとおりであり、これを遵守するよう教員が指導している。

表6-9-2 寮生活日課

項目	日課の時間帯
起床	7:50
点呼・体操	8:00～8:10
朝食	平日 7:50～8:50 休日 7:50～9:30
昼食	平日 11:50～12:50 休日 12:00～13:10
夕食	18:00～19:00
夕食終了	19:30
入浴	17:30～21:00
自習	21:00～23:00
門限・点呼	男子 22:00 女子 21:30
消灯・就寝	0:00

ただし、定期試験等、教育上の理由により一時的に変更することがある。

起床の時刻になると、放送担当の寮生が起床の音楽を流し、2年生以下の寮生は直ちに起床、体操のできる服装に着替えて庭に集合する。集合が完了すると、寮生会役員がA、B寮各階ごとに点呼をとる。これまでの起床状況は、概ね良好である。また、授業開始後には、寮務担当の事務職員が各寮を巡回して、寮に残っている学生の確認や健康管理に関する支援を行っている。食事や入浴に関しては、決められた時間に行われていて、大きな問題は生じていない。

## (2)行事

平成22年度の学寮における、寮生を対象にした主な行事は、表6-9-3のとおりである。

例年ほぼ同じ時期にこれらの行事を行っている。寮生間の親睦を図る行事（寮生交歓会、新入寮生歓迎会、寮祭、クリスマス会、予餞会、寮生球技大会）は、寮生会役員を中心に寮生の自主的な企画、運営で行うように指導、助言している。

入寮式、閉寮は教員の指導の下に実施している。防災訓練については、地元の消防署の指導の下に避難訓練と消火訓練を実施しており、ほぼ全員の寮生が参加している。リーダー研修は、隔年に実施することとしており、寮生会の全役員が参加し、寮生会の果たす役割、望ましい人間関係等について研修を行い、寮生会役員としての自覚と知識を身につけることを目的としている。平成21年度のリーダー研修は、平成21年6月12日～13日に実施した。この他、寮生が年2回自主的に寮生総会を開き、寮生会役員の選出などを行っている。



表6-9-3 平成22年度年間行事予定

4月 5日	(月)	開寮・入寮式
12日	(月)	寮内挨拶廻り
14日	(水)	新入生歓迎会
17日	(土)	寮生保護者懇談会
21日	(水)	防災訓練
5月12日	(水)	寮祭
6月14日	(月)	寮生球技大会
～16日	(水)	
7月14日	(水)	寮内外大掃除
21日	(水)	寮生総会（寮長選挙）
8月12日	(木)	閉寮
9月30日	(木)	開寮
11月15日	(月)	寮生球技大会
～17日	(水)	
12月14日	(火)	寮内外大掃除
15日	(水)	クリスマス会
23日	(木)	閉寮
1月 5日	(水)	開寮
19日	(水)	予餞会
2月 2日	(水)	寮生総会（寮長選挙）
27日	(日)	5年生退寮
3月 3日	(水)	部屋替え
3月 4日	(金)	閉寮

### (3) 学習指導

寮生活日課（表6-9-2）に示したとおり、学寮では自習時間を設定しているが、すべての寮生が日常的に自習を行っているとは言い難い。しかし、定期試験や各種試験の前には、自習室や居室を使用して熱心に学習に励む寮生がほとんどである。さらに、定期試験前の数日間には学寮委員の教員が巡回し、3年生以下の寮生の自習状況を確認して、状況の良くない者には指導を行っている。さらに、試験後の成績結果から、学寮委員が成績不振者を対象にした面接を実施して指導や助言を行っている。

また、寮生の学習を援助する目的で、寮内にコンピュータ、及び寮生ホールの自習室（エアコン完備）に学習机20脚を設置するとともに、A寮1階の1室を製図室として寮生の利用に供しており、これらの利用度は非常に高い。

高専の独立法人化に伴う業務上の制度変更（管理当直制度への移行）により、従来まで行ってきた宿直者による学習・生活指導の実施が困難になってきた。現在は、学寮委員が時間外勤務として指導にあたっているが、指導体制について、引き続き検討していく必要がある。

### (4) 健康管理

健康管理に関しては、寮務主事や寮母が適宜一般的な注意を行っている。寮生が体調の異常を訴えた場合、寮内での処置が可能と判断されると、当直者が必要な処置を行うが、寮内での処置が困難な場合は、当直者が病院まで連れて行くことがある。また、状況によっては家庭に連絡して引き取ってもらっている。

## (5) 寮則違反

寮の指導措置としては、寮務主事注意、寮務主事厳重注意、自宅通学（3日から3カ月）、退寮勧告及び退寮処分がある。措置にあたり、家庭の協力が必要な場合には、密接な連絡をとり、必要に応じ保護者の来校を求めている。

## (6) その他

寮内ではまれであるが、現金、貴重品、食券等の盗難が報告されており、平成16年度には、管理棟内に電子式の貴重品ロッカーを設置し、学生が自由に使用できるようにした。

アルバイトについては、3年生以下は禁止している。一方、4、5年生については、寮生活の乱れを招くと同時に学習に悪影響を及ぼしていると思われる点も見られることから、届出制としている。

## 9.4 寮定員の推移と寮室の充足率の推移

学寮の定員は、平成17年度より205人であり、各寮別の定員の内訳と、過去7年間の現員数及び充足率の推移は表6-9-4のとおりである。また、同表は入寮者の学年別の内訳も示しており、入寮希望者は増加の傾向にあることがわかる。例えば、平成22年度の充足率は86.3%（全寮）にまで上昇している。現在の社会状況から判断すると、家庭を離れての自立や勉強時間の確保することなどの理由から入寮を希望する学生が増えているものと考えられる。このために、寮の施設面の改善や、指導体制の見直しが益々重要な課題となっている。

平成22年度の入学者と入寮者の出身地域分布を表6-9-5、図6-9-3に示す。当然のことであろうが、距離的に通学困難な地域からの入学者の入寮率が高くなっている。

表6-9-4 学寮定員と居室の充足率の推移

区分 年度	定 員				現 員（4月1日現在）				現 員 の 学 年 別 構 成					
	計	A寮	B寮	C寮	計	A寮	B寮	C寮	1年	2年	3年	4年	5年	専攻
16年度	225	99	52	74	143 63.6	60 60.6	34 65.4	49 66.2	36	26	29	22	29	1
17年度	205	99	32	74	144 70.2	73 73.7	8 25	63 85.1	36	29	32	28	17	2
18年度	205	99	32	74	165 80.5	85 85.9	16 50	67 90.5	32	35	37	35	27	2
19年度	205	99	32	74	161 78.5	82 82.8	18 56.3	61 82.4	40	24	33	31	32	1
20年度	205	99	32	74	180 87.8	93 93.9	22 68.8	65 87.8	45	40	27	34	31	3
21年度	205	99	32	74	184 89.8	94 94.9	23 71.9	67 90.5	36	46	42	25	33	2
22年度	205	99	32	74	177 86.3	84 84.8	24 75	69 93.2	32	35	48	38	24	0

※平成22年度は10月1日現在

（注）現員欄下段は定員に対する充足率（%）を示す。

表6-9-5 出身地別入寮状況（平成17年度）

内訳	人数	入学者	入寮者
			169人
兵庫県		161人	25人
大阪府		4人	3人
京都府		1人	1人
奈良県		2人	2人
広島県		1人	1人

図6-9-3 兵庫県地区別の入学者と入寮者数



## 9.5 女子寮

本校における女子学生の数は年々増加の傾向にあり、平成22年度入学生では全入学者170人中、女子学生の数は21人、平成17年度における全校学生827人中では、134人であり約16%を占めている。このような状況に伴い女子学生の入寮希望者も増加してきた。このため、B寮を女子寮として使用できるように改修工事を行い、平成17年9月に開寮した。女子寮の定員は、32名であり、現在は24名が入寮している。

女子寮は、玄関に指紋認証システムや監視カメラを設置し、棟の周囲には赤外線センサによる警報システムを導入するなどの安全対策を施した。居室は個室とし各部屋にはインターネットに接続できるLANコンセントを用意した。また、玄関にはスロープを設置して、車いす利用者などに対するバリアフリーを実現している。

平日の夜間（19時から22時）は、寮母が女子寮内の寮母室に原則として常駐し、女子学生の健康管

理や生活などに関する支援を行っている。また、当直教員が男性の場合には、寮母を伴って女子寮の巡回業務を行っている。

女子寮生は、男子寮生と共同で各種の寮内行事を実施しており、寮生役員会も男子学生役員と女子学生役員を合わせて構成している。

## 9.6 寮施設と寮生の生活

### (1) 施設改善の経緯

寮設置以来大規模な改修を実施したのは昭和61年度である。この改修によって寮の定員は、225人となり、一人当たりの室面積はそれ以前に比較してほぼ1.5倍に拡大した。また、C寮は、出入り口を共通とするものの、居室は独立性の強いものとなり、プライバシーの確保が図られた。

居室は平均では6畳をやや下回る広さである。A寮は昭和40年代中ごろに改修による増築がなされたが老朽化が進み、また、日照、通風など環境面にも問題があることから、平成8年度に策定の学寮将来計画において改革計画を盛り込んで以来、早急な改築が行われるように予算要求を続けているところである。平成17年度から、B寮を改修して女子寮を開寮したのは前述の通りである。

### (2) 寮生の生活のための設備

居室の冬季暖房（スチーム）は限定した時間帯にのみ行っている。食堂は120席の座席があり、1回の入替えで全員が食事をとれる。食堂の暖房はスチームとエアコンで行っている。

各寮フロアの補食室には、ガスレンジと瞬間湯沸器を設置するとともに、各寮と食堂に電子レンジ1台を置いている。洗濯は総数22台（各寮フロアと洗濯室に設置）の洗濯機と22台の乾燥機を利用している。

学習支援施設としては、自習室に、図書室（佐藤文庫を含む）、製図書があり、平成10年度より、新たに食堂西側一角の寮生ホールを自習室とし、学習机20脚、コピー機1台、エアコンなどを設置している。

娯楽施設としては、各寮に談話室がありテレビ、ビデオを総数6台配置している。また、球技用具も準備している。

また、電源容量増加の工事を行ったことに伴い、平成16年度からは小型の個人用冷蔵庫の持ち込みを許可した。また、平成17年度からは、時代の状況を考慮して、届出を義務付けていたパソコンの持ち込みを届出不要とした。また、平成18年度より無線LANによる、A、C寮の各居室でのインターネット使用環境を整備した。

B寮は女子寮として改修した際に耐震補強を施したが、A寮とC寮も、平成19、20年度に耐震補強工事を実施し完了した。

## 9.7 留学生に対する配慮

本校では、毎年数名の留学生が3年生に編入してくる実績がある。留学生の多くは、入寮を希望しており、希望者は全員入寮を認められている。表6-9-6に留学生の入寮状況を示す。

入寮した留学生は、同じ学科のチューター学生と同室となり、寮生活や学校生活などに関する支援を受けている。また、食堂では、宗教上の理由から通常の食事が食べられない留学生のために、特別メニューを用意するなどの配慮をしている。さらに、留学生用に補食室と呼ばれる自炊可能な部屋を用意し、冷蔵庫、オープンレンジやエアコンなどを設置している。この他、留学生用のシャワー室（3人用）なども設置している。

留学生については、帰国困難な学生について、閉寮期間中であっても在寮を認めている。

また、平成16年度からは、明石市の主催するイベント「国際親善交流会」に参加する留学生を引率している。平成22年度も、交流会に参加し、明石市民などとの交流を深めた。

表 6-9-6 留学生の入寮状況

年度 \ 人数	入学者数	入寮者数
18年度	4	4
19年度	3	3
20年度	3	3
21年度	4	4
22年度	3	3

## 9.8 寮生活改善に対する取組

寮生の寮生活に対する不満や要求を聞き、可能な限り寮の施設や設備の改良を図り、運営方法を工夫していくことは寮生活を快適なものにするうえで欠かせない。そのために、現在次のような取組を行っている。

- (1) 学寮委員会と寮生会役員との協議
- (2) 食堂委員会における食事に関する検討
- (3) 寮生の意識調査

(1)では、寮生会の役員と学寮委員が定期的に寮の運営方法や、施設・設備の問題、新規要求等についての意見を交換している。(2)では食堂のメニュー、価格、サービスについての検討を行っている。(3)は、新入寮生を対象として寮生活の実態、意識、期待についてアンケート方式での調査に加え、聞き取り調査を実施することで、より詳しく寮生の実態を知ること努めている。これらの結果から判断すると、寮生活全般については満足している寮生が多いが、食事や住環境については満足度が低いことがうかがえる。食事や住環境に関する要望内容は個人差が大きいため、より多くの寮生の希望を実現するためには、今後一層の調整作業が必要となろう。

## 10 進路指導

本校における進路指導の体制は、学校、学科、進路担当教員の3つの取組みに分けることができる。

### 10.1 全学的な指導体制

学校としての取組体制は、進路指導ガイダンスの徹底と、進路関係書類の処理である。

- (1) ガイダンスの徹底として、「学生生活のてびき」により、入学時から就職と進学を検討し始めることができるようにしている。さらに「担任マニュアル」により、1・2年生におけるロングホームルームを利用し、副担任（専門学科教員）がガイダンスを実施するよう推進している。担任マニュアルでは、4・5年生における進路指導の指針も示している。
- (2) 大学及び大学院からの募集要項等は学生課で整理し、一覧表をつけて、各学科に提供すると共に学生の閲覧に供している。「学校だより」の3月号では毎年「修了・卒業生進路先一覧」を掲載し、

保護者にも情報を提供している。本校ホームページで就職担当教員を紹介し、企業等からの連絡を容易にしている。

- (3)平成17年には進路指導委員会を設置し、本校の進路指導の方針を明確にしていくとともに、各方面での取組みの有機的な連携を図ってきた。特にガイダンスに関しては、後援会総会での要望・質問において、進路指導を分りやすく実施して欲しい等の要望が多く出ていることから、全学年を通じた進路指導の一覧表として、平成23年度進路指導計画を作成し教員会において周知した。

## 10.2 学科としての取組

学科としての取組みは、低学年へのガイダンスの実施と進路情報の蓄積・提供である。

- (1)1年生には導入教育としての専門科目を設定しており、専門性の理解と将来の活動分野への興味を引き出すようにしている。
- (2)ロングホームルームを利用したガイダンスは専門の中での各分野が紹介できるよう複数の教員で実施している。卒業生等を講師として招き、実務内容を聞けるようにもしている。
- (3)進路情報として、求人・募集の書類及び一覧表、採用試験・入学試験の受験報告等を各学科の進路指導室に保管し、学生の閲覧に供している。求人の一覧表は各学科において作成している。
- (4)同窓会も重要な進路情報源であり、各種の会合を通じて情報を得ている。各専門学科では卒業生の仕事を紹介するパネルを廊下壁面等に展示している。

## 10.3 進路担当教員

進路の個別相談と具体的な決定を支援する担当教員には、学科では5年担任・学科長を、専攻科では専攻科教務委員（或いは学科長）を充てており、下記の進路指導を実施している。

- (1)進路に関する説明、学生との面談を行っている。
- (2)保護者に対する説明会及び面談を行っている。
- (3)進学希望者に対する調査書の作成及び就職希望者に対して企業への推薦・交渉を行っている。学生に対する応募書類の手続き等は、3・4月に進路担当教員が説明を実施している。
- (4)最終的な進路の指導・決定・受験は、個々の学生の能力、性格等を充分考慮し、学生に合った進路を勧めることを基本としており、学生個人との面談にはどの進路担当教員も多くの時間を割いている。
- (5)4年生担任も進路に向けた準備指導、卒業研究のテーマと進路の関係を説明している。

## 10.4 就職の状況

就職・進学の様子は、「IV 教育の成果及び改善システム」の「1.3 就職・進学状況からみた教育の成果」に詳しいデータで示している。

- (1)卒業生に対する就職者の割合は、準学士課程、専攻科いずれも減じている。これは日本経済の低迷と要求される技術の高度化から当然の傾向と考えられる。
- (2)しかし求人数は不景気と言われながら比較的安定している。これは経済構造の変革が進み、団塊の世代のリタイアしていくためと考えられる。同時に高専卒業生に対する求人需要が以前どおり大きいことも確認される。
- (3)近年求人時期が早まり、大学では3学年時の12月から3月に募集・面接が行われる傾向がある。
- また、自由応募も増えており、学校推薦と並行して受験するケースも増えている。就職の斡旋に

関しては、今後、時期と応募形態に十分注意を払っていく必要がある。

### 10.5 進学状況

社会の高学歴化、生産の多様化と産業構成の変化、学生のリモトリウム的傾向等から進学を希望する学生が増えており、準学士課程では、平成11年度は卒業生の5割程度であったが、17年度ではおよそ6割、平成22年度ではおよそ7割の学生が大学に編入学する状況となっている（IV章 表4-1-9参照）。

- (1) 多くの国公立大学が編入学生を募集しており全体の募集人員が増えている。立命館大学との協定による推薦入学の制度等、私学の編入学募集も増えてきている。
- (2) 大学によって編入学試験の試験科目に特徴があり、また試験実施日も一斉ではない。受験科目の選択や複数の大学受験等、学生は事前に計画を立てて受験勉強をする傾向にあり、大学の編入学試験の情報は重要なものとなっている。また、大学によっては過去問を公開しているところもある。
- (3) JABEEによる教育プログラムの認定に伴い、学生にとっては卒業後の技術士の資格取得等のため、より大学編入学の傾向が強まると考えられる。

### 10.6 進路変更

本校での5年間の課程修了に至る以前に退学して、別な進路を目指す学生も生じる。高校程度卒業認定の受験、他の高校への転入学、センター試験の受験等、可能性は様々に考えられる。どちらかといえば担任が独力で進路変更を支援してきたが、今後は進路指導委員会で制度・実績等の各種情報の整理に努め、進路変更の検討を支援していくことが望まれる。

## 11. 優れた点及び改善を要する点

### （優れた点）

- (1) 学習支援
  - ・ LAN上から成績一覧表や出欠状況を確認できるようにし、担任が迅速に指導を行うことを可能としている。
  - ・ オフィスアワーを設定し、補充指導の実施や学生の質問・相談の機会を確保している。
  - ・ 入退室管理に指紋認証システムを取り入れ、放課後・休日における卒業研究や課題制作及び自学自習を校舎内で行いやすくしている。
  - ・ 情報センター・図書室・各学科演習室等にLANに接続した情報機器を設置し、TOEICの自習システム等を使えるようにするなど、自学自習の支援システムの充実を図っている。
- (2) 福利厚生施設
  - ・ 中庭にテーブルやパラソルを設置するなどにより学生用のコミュニケーションスペースを確保している。
  - ・ 学生の自主的なキャンパスアメニティに関する提案を積極的に採用している。
- (3) 学習支援に関するニーズの把握
  - ・ 平成14年度より意見箱を設置し、学生からの意見の汲み上げに努めている。
- (4) 資格試験や語学等への支援
  - ・ TOEIC IP テストの導入・支援やニュージーランドのオークランド大学での3週間の語学研修

等により、英語の学力向上に努めている。

**(改善を要する点)**

- ・ 進路指導は各学科等において適切に実施されているが、平成22年度時点では、学生・保護者からみた場合、全体のプログラムを把握できないことがあり、入学初年度から在学期間を通じた進路指導の方針・計画を示すことが必要である。
- ・ 「学校だより」を中心に保護者への広報を行ってきているが、リアルタイムで伝わらないという弱点があり、学習指導・進路指導がスムーズに行えるよう、ホームページの積極的な活用などにより日常の連携を強化する必要がある。